

令和 7 年度使用

中 学 校 用 教 科 用 図 書 の
採 択 に 関 す る 調 査 研 究 報 告 書

浜田地区教科用図書採択協議会調査員会

各発行者記号は次のとおりである。

記号	発行者名	発行者略称
A	東京書籍株式会社	東 書
B	大日本図書株式会社	大日本
C	教育図書株式会社	教 図
D	開隆堂出版株式会社	開隆堂
E	学校図書株式会社	学 図
F	株式会社三省堂	三省堂
G	教育出版株式会社	教 出
H	株式会社教育芸術社	教 芸
I	光村図書出版株式会社	光 村
J	株式会社帝国書院	帝 国
K	株式会社大修館書店	大修館

記号	発行者名	発行者略称
L	株式会社新興出版社啓林館	啓林館
M	株式会社山川出版社	山 川
N	数研出版株式会社	数 研
O	日本文教出版株式会社	日 文
P	株式会社Gakken	学 研
Q	株式会社自由社	自由社
R	株式会社育鵬社	育鵬社
S	廣済堂あかつき株式会社	廣あかつき
T	日本教科書株式会社	日 科
U	令和書籍株式会社	令 書

選 定 に 必 要 な 資 料

国 語 No. 1

記 号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
A	○巻頭で、1年間で学ぶ事柄を観点別・学習内容別に整理し、見通しを持ちやすくしている。 ○領域別にページを色分けし、視覚的に見やすく整理されている。 ○文章下部に、ドットを付記し、行番号を数えやすくしている。 ○QRコンテンツを増やしたことで総ページ数を削減し、コンパクトで扱いやすい。 ○「未来について考える9つのテーマ」が設けられていて、未来について様々な視点から考えられる工夫がされている。 ○「資料編」では学びを深めることのできる資料が掲載されている。	○「読む」領域ではてびきで学習の流れを段階的に詳しく解説しており、学習の進め方や方法が分かりやすい。 ○「書く」領域、「話す・聞く」領域では、学習の手立てを、具体例を用いつつ視覚的に分かりやすく整理している。 ○「書く」領域では、食文化や地域の魅力など、身近で取り組みやすい題材を用いている。また、お手本の文章で学ばせ、手立てを具体的、視覚的に学習しやすいようにしてある。 ○「読む」領域で学習したことを踏まえ、「書く」領域の学習に結びつけるなど、学びのつながりを考慮した配置になっている。 ○「話す・聞く」領域では、「学習の流れ」を、動画で確認しながら見通しを持ち、個別のつまずきに応じて支援するQRコンテンツが示されている。	○学習の導入にアニメーションや漫画などを用いて、生徒が問題意識を高め、意欲的に学習に取り組めるようにしたり、個のつまずきに応じて動画でポイントを確認できるようにしている。 ○古典学習の導入に「浦島太郎」「伊曾保物語」を引用し（1年p.140）、関心を高められるよう工夫されている。 ○QRコンテンツでは、文法ゲームや練習問題を掲載し、意欲的に学習に取り組めるよう工夫されている。 ○写真資料、イラスト、カラーページが増え、より取り組みやすくなっている。 ○「読書への招待」で「お読み読書のすすめ」として本の一部分を紹介したり、著名人の言葉を紹介したりなど、生徒の読書意欲を高める工夫がされている。	○教材の終わりに「てびき」の項を設け、目標や身につけさせたい力が分かりやすく整理されている。 ○説明的文章では、図表の読み取り（1年p.118）や読み比べ（2年p.102）を取り上げながら、論理的思考力の向上を図っている。 ○「読書案内」で図書紹介をするとともに、「読書活動」では図書館の機能を活用したビブリオバトルなどの活動が示されている。（2年p.182） ○SDGs等現代的な諸課題に取り組んでいる。（未来を考える9つのテーマ） ○「地域の魅力」の紹介文（2年p.68）などで身近な地域の中から題材を決めて効果的に伝える活動が取り入れられている。	○他教科との関連のもてものについてはマークを付けている。（1年p.78） ○巻末の資料編では、要約の仕方や思考ツールを使った分析の仕方などについて示されており、広く各教科の調べ学習に活用できるようになっている。 ○巻末デジタルコンテンツ一覧から、家庭での予習や復習に使えるコンテンツにアクセスできるようになっている。	○色褪せない名作、感性を豊かにすること等をテーマにした新教材（「未来を考えるための9つのテーマ」）が魅力的である。 ○QRコンテンツが充実しており、導入やまとめだけでなく、個別のつまずきや学習の進度に応じて活用できる。 ○教材の冒頭に示す目標を生徒目線の問いかけの形にするなど、生徒にとって身に付けたい力や着目すべき点が分かりやすい工夫がされている。 ○キャラクターの多様性への配慮がされている。
	○読書活動（1年「本のポップ」、2年「ビブリオバトル」、3年「私のベストブック」）が掲載されている。 ○1年生はフォントが大きく、見やすい。また、イラストが増え、これまでの2段構成が小説教材で1段構成になり、視覚的に読みやすくなっている。 ○各学年の表紙絵が、時間の流れや人とのつながり（成長）を感じさせる工夫がされている。					

選 定 に 必 要 な 資 料

国 語 No. 2

記 号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
F	○身につけさせたい力（知識・技能と思考力・判断力・表現力）と教材名や取り組む言語活動が、一覧表に示されており、指導事項と教材との関連が明確である。（1年p. 6） ○現代社会を生きていく上で出会う様々な課題やテーマに対応する工夫がされている。（防災教育1年p. 148、SDGs2年p. 148、金融教育3年p. 150） ○書体、レイアウト、図解、色等、ユニバーサルデザインへの取り組みが進んでいて、すべての生徒が学びやすい。	○各学年「読み方を学ぼう」として、3年間を通じてつけた力が明確にされ、図解でわかりやすく表されている。また、読解の力が伸びるように配慮した教材が配列されている。（各学年巻末折込） ○各学年第6単元で「情報」についての単元を設け、複数の情報を関連付けて考えをまとめるという生徒の課題に対応できるよう、データと文章を関連付けて自分の考えを表現する単元がある。	○古典教材にはそれぞれ年表が付され、学習者が時代背景と結びつけるのに役立つ。また、資料編「古典芸能に親しむ」では各学年違った芸能を取り上げ、豊富な写真とともに紹介し、関心を高めるよう工夫されている。 ○又吉直樹や夏井いつき等TVでなじみのある作家の読書紹介（1年p. 94）や俳人の文章（3年p. 72、p. 75）を取り上げている。 ○各学年最終単元に「歌の言葉」というページがあり、YOASOBI、ヒゲダン等の歌の歌詞と美しいイラストが掲載され、学習者の意欲付けや言葉への意識が生活の中でも磨かれるような工夫がなされている。	○「日本語と英語の音節」（1年p. 329）、「日本語と英語の語順」（2年p. 247）、「日本語と英語の慣用表現」（3年p. 163）など、英語との関連を取り上げている。 ○「資料編」として、情報検索、メモや手紙の書き方等がまとめられており、他教科や社会生活にも活用できる内容がまとめられている。 ○各教材に、「私の本棚」として、関連した本が3冊紹介されている。また、巻末の「読書の広場」（1年p. 244）もあり、たくさんの図書資料を紹介している。 ○地域のよさや魅力について考える学習が設定されている。（2年p. 230）	○「漢字を身につけよう」（例1年p. 42）では巻末の新出漢字一覧のページを示し、家庭学習で取り組みやすいように工夫されている。 ○1年「故事成語一矛盾」の学習では書き下し文だけでなく訓読文も列記している。 ○資料編が、優れた小説や百人一首等で構成されている「読書の広場」、読書感想文の書き方等で構成されている「社会生活に生かす」コーナー等内容が魅力的で発展学習に活用しやすい。 ○二次元コード一覧があり予習復習に役立つ。	○「読む」領域の「学びの道しるべ」、「話す・聞く」領域の「学習の流れ」では、学習過程を示し、見通しをもって学習し、「学びを振り返る」でキーワードを示すことで学んだことを学習者が意識化できるようにしている。 ○教材によってどのように考えを進めていくかを「思考の方法」として示している。3年間で様々な思考法を身につけていける。（1年p. 16） ○色や記号や折込ページを使用し、視覚的に理解が進むような工夫がある。（1年p. 47、2年p. 47、3年p. 55） ○QRコンテンツ（10minボックス等）が充実していて、授業づくりや内容理解に役立つ。
	○読書活動（1年「私が選ぶこの一文」 2年「ビブリオバトル」 3年「ブックトーク」）が掲載されている。 ○課題作文の書き方を取り上げた単元では、例を豊富に挙げ、生徒の理解が進むよう工夫されている。（3年p. 52）					

選 定 に 必 要 な 資 料

国 語 No. 3

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
G	○第1・2学年は9単元、第3学年は8単元で構成されている。巻末の「言葉の自習室」にも3～4作品ずつ置くなど、読み物作品が豊富である。 ○話すこと・聞くこと・書くことでは、生徒の日常生活などに応じた内容で話題や課題を設定している。	○SDGs教材として「持続可能な未来を創るために」を各学年に設け、生徒が現代社会や日常生活に問題意識をもって考えを深められるような工夫がされている。 ○「情報・メディアと表現」として、テレビ、SNSをはじめメディアの特徴を知り、表現力やものの見方を養う契機となるような教材が取り上げられている。(2年p.86) ○穂村弘やさくらももこなど著名な作家や著者の題材を取り上げている。 ○「学びナビ」が教材の導入部分にあり、これまで学んできたことと、これから何をどのように学ぶのかが分かりやすくなっている。	○生徒の関心の高い漫画やアニメの絵コンテ等を取りあげて、メディアの特性と表現の関連を考えさせる単元を配置している。 ○「学びリンク」というQRコードを付し、学びを広げるための資料や自分の力で取り組む資料などにつながるようにしている。 ○1年生古典では「桃太郎」を導入材としており、取り組みやすくしている。 ○文法の小窓では、親しみがもてるような生徒キャラクターの会話などをもとに文法の学習ができるような工夫をしている。	○3年生の「読書への招待」では森鷗外の「最後の一句」が取り上げられている。また、「森鷗外が歩んだ人生」として豊富な写真資料をもとに特集がされていたり、表紙の内側には『「ふるさと」を巡る』コーナーがあり、津和野町の鷗外生家の写真が掲載されたりしている。 ○「広がる本の世界」が各単元末に付されており、単元の内容と関連した本が紹介されている。 ○「みちしるべ」としてビブリオバトルのやり方の提示など図書館の機能を活用した活動が示されている。(3年p.56) ○教科書263冊、まなびリンク71冊で、合計334冊の図書が紹介されている。	○各学年「学びのチャレンジ」(例1年p.192)という問題が掲載されており、家庭学習につなげることができる。全国学力・学習状況調査などを踏まえた活用を確かめるような設問で、文字以外の情報と文章を関連付けて考える力を養うことができる。 ○「学びナビ」として、必要な情報を整理する方法や多面的に捉える方法など思考ツールを紹介し、思考力を育む手立てとしている。 ○高校接続の工夫として、古典文法活用表を発展教材として掲載している。(3年p.310)	○「学びナビ」が教材の導入部分にあり、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の目的意識をもって学習に取り組めるようになっている。 ○各学年にSDGs教材を設け、SDGsの目標と関連付けて、生徒が現代社会や日常生活に問題意識をもって考えを深められるような工夫がされている。 ○生徒が日常で接する多様なメディアについて、媒体の特色や扱い方、接する際のモラルや注意点など、情報化社会に対応していくための教材を掲載している。
	○イラストのキャラクターの制服や国籍など、多様性や人権への配慮がされている。					

選 定 に 必 要 な 資 料

国 語 No. 4

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
I	○「学習の見通しをもとう」「本編」「学習を広げる」の大きく3部で構成されている。「学習の見通しをもとう」では、身に付けさせたい力を領域ごとに系統的に把握できるとともに、他教科やSDGsとの関連も意識できる工夫がされている。 ○1年の学習教材は、身近なものを扱った文学作品や論説文、2年では思考を必要とする文学作品、論説文、随筆、3年生では社会に目を向ける内容の文学作品、論説文と、発達の段階に応じた内容になっている。	○教材後の「学習」ページでは学習過程を明示するとともに、重点を置く過程は強調して、年間を通してバランスよく力がつくように配列されている。 ○「書く」領域では、活動における学習のつながり（関連）がわかる工夫がされており、段階を追って関連をもちながら学習を進めていくことができる。 ○1年生の古典では、様々な作品に触れるのではなく、なじみ深い「竹取物語」1つに絞り、学習を進めることで、より効果的に学習できるよう工夫がされている。	○1年古典学習では、中学校での古典学習の系統が年表等で図解され、古典学習の流れの意識化と関心を持たせる工夫がされている。 ○「話す・聞く」領域では、QRコードの動画を見ることが活動の仕方が分かりやすい工夫がされている。 ○「広がる読書」では、学んだ教材に関係する本を紹介し、作品や作者への興味を引く工夫がされている。	○SDGsに関連するテーマを意識した教材が全学年を通じて取り上げられ、持続可能な社会の実現に向けた取り組みに目を向ける工夫がされている。 ○翻訳作品の読み比べを通して、同一作品の翻訳の違いに興味をもち、自己の読書生活が広がるような工夫がされている。 ○各学年「語彙ブック」をつけることで、思考力・表現力を高めることへの事例が紹介され、語彙力を増やす工夫がされている。	○各学年巻頭に折込ページで「思考の地図」を掲載し、様々な場面で活用できる思考方法を紹介している。 ○巻末に「ICT活用のヒント」を載せることで、ICT機器を活用する場面やその方法を紹介している。また、「国語の力試し」「書くことのミニレッスン」など、家庭学習でも活用できるコンテンツがある。	○各学年「語彙ブック」を付けることで、思考力・表現力を高めることへの事例が紹介され、語彙力を増やす工夫がされている。 ○巻末に「ICT活用のヒント」を載せることで、ICT機器を活用する場面やその方法を紹介している。 ○各学年巻頭に折込ページで「思考の地図」を掲載し、様々な場面で活用できる思考方法を紹介している。
	○各学年「言葉を味わう」のページが配置され、1年では「動き」2年では「色」3年では「時間帯」を表す言葉が紹介され、言葉の豊かさや美しさを味わう工夫がされている。					

選 定 に 必 要 な 資 料

書 写 No. 1

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	(感性をはぐくむ要素を含む)
A	○学習編は1年が39ページ、2年が25ページ、3年が17ページ。資料編は41ページ。 ○主な毛筆教材は1・2年が各5、3年が1。書き初めが各学年1。硬筆も各1教材だった。	○基本単元は①見つけよう②確かめよう③生かそう、である。 ○「時候の挨拶」など生活につながる言語活動に関するものがり選択されている。 ○伝統的な用具用材を取り上げると同時に、UD書体についても取り上げている。 ○行書一覧には人名漢字も記載され生徒が自身の名前を探せ、常用と合わせて見やすいよう行と列に番号が振ってある。	○巻頭の「文字を『書く』ってなんだろう」で書くことについての意義を考えるヒントがわかりやすくイラストで示されている。 ○オリジナルキャラクターの「コウゾ」が親しみやすい。 ○「基本の点画の書き方」は試筆がキャラクターになっており向きや太さが一目でわかる。	○「身の回りの文字の目的と工夫」では学校や街で見かける文字の目的と工夫を考ええる写真が多く掲げられている。 ○「伝統的用具用材」では石州半紙が取り上げられている。	○手書き文字と活字についての説明では活字の書体にUD書体の説明がある。 ○2次元コードがあり、運筆を解説した動画があり、線の補助や音声ガイドによってわかりやすい。また、生徒自身が動画や資料を活用して学習を進めることができる。 ○書写テストで復習に取り組める。	目標に向かって「見つけ→確かめ→生かし→振り返る」流れで構成されており、ポイントは「書写のかぎ」で確かめられる。2次元コードでの動画視聴など生徒が理解を深められるように支援されている。また、小学校から中学校へ、中学校から高校へと接続がスムーズになるよう意識したものになっている。
	○1年の「これまでに学んできたこと」(p. 6～7) 3年の「書の古典～今に生きる」(p. 101～104)で小中高の接続が円滑に行えるように配慮されている。					
F	○1年は34ページ、2年は22ページ、3年は9ページ。 ○主な毛筆教材は1年が5(半紙原寸大の大きさのもの) 2年が3、3年が1だった。書き初めが各学年1。また、毛筆補助教材として6採用されている。	○教材の冒頭に目標があり、ポイントを確認できる。 ○振り返りのポイントを問いかける形で記載している。 ○資料を厳選し、書き込みを増やし、シンプルで見やすい構成。	○達人を紹介するページにおいて文字を仕事にする人を紹介することで意欲付けがされている。 ○新しい文具として消えるボールペンやタブレット・タッチペンを取り上げている。	○国語の教科書と連動していると思われる作品を文章例として採用している。 ○手紙の書き方を資料のページにまとめ、各校各学年で取り上げて活用しやすい。	○2次元コードがあり、姿勢や持ち方が音声で解説され、わかりやすい。 ○都道府県名が一覧で読みやすく、なぞり書きの練習もできる。 ○書写テストで復習に取り組める	目標で学習のポイントを確認でき、構成のシンプルさによって生徒が集中力を阻害されにくい。巻末の書き方のポイントによって適宜振り返りが行え、学習したことの把握が容易。
	○「この教科書の使い方」(p. 4、5)によって1年の学習がスムーズに始まるようにし、「書き方を学ぼう一覧」(p. 117～120)によって既習事項を確認しやすくなっている。					

選 定 に 必 要 な 資 料

書 写 No. 2

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	(感性をはぐくむ要素を含む)
G	○1年は53ページ、2年は30ページ、3年は13ページ。 ○主な毛筆教材は1年が5（半紙原寸大の大きさのもの1）、2年が3、3年が1だった。書き初めが各学年1。毛筆補助教材が10採用されている。	○「目標→考えよう→生かそう→振り返ろう」という学習の流れになっている。 ○行書を学習する冒頭に学ぶ意味を考えさせたり筆の動かし方のトレーニングを入れたりするなど配慮されている。	○実際に書いて練習するスペースが多い。 ○ノートの取り方や学習のまとめ方など紹介し、普段の生活や学習に生かすことを意識させている。	○筆使いを「とめ」「右払い」のように一つずつ分けて動画にしており生徒の習熟度に合わせて使用しやすい。 ○硬筆の手本の動画がある。	○3年間で学んだことのまとめとなる課題が複数提示されている。 ○2次元コードがあり。 ○書写テストで復習に取り組める。	補助教材を含めると多くの毛筆教材が採用されており、行書をしっかりと学べるつくりになっている。また、2次元コードから見ることでできる動画を活用することで生徒の習熟度に合わせた学びをすることができる。
	○幅の広いAB判で見やすい作りになっている。書写で学ぶことが図示されていてわかりやすい。また、学年ごとに学ぶことは何か扉のページで解説をして把握しやすい。					
I	○学習編は1年が28ページ、2、3年が各22ページ。資料編が49ページ。 ○主な毛筆教材は1年が4（半紙原寸大の大きさのもの3）、2年は4（半紙原寸大の大きさのもの2）3年は3だった。 ○硬筆は古典や名文の教材を各学年、季節のしおりとして配置。	○書写ブックが取り外して使えるようになっており毛筆での学びを硬筆に生かせるようになっている。また、書写ブックは紙質が書きやすいものになっている。 ○部分別行書一覧では名前の書き方を示している。	○楷書と行書の使い分けを考えさせる教材が掲載されている。漫画での導入や著名人のサインなど興味を引く題材。	○「全国文字マップ」では、身の回りにある文字に目を向ける工夫がされている。 ○「季節のしおり」では国語の教科書にでてくる古文など載せ関連させている。 ○ユニバーサルデザインについてのコラムや色覚特性に配慮した色使い、キャラクターの服装に多様性を盛り込むなどしている。 ○タブレット端末の活用についてとりあげている。	○2次元コードのコンテンツが豊富に用意されている。 ○生徒の名前を半紙で使用する大きさの手本として印刷できる。 ○書写テストが書写ブック内で取り組める。	半紙原寸大の毛筆教材が豊富で生徒がイメージしやすい作りになっている。また、タブレットを活用した学習に取り組みやすく、生徒の教科の横断的学びや主体的な学習も期待できる。また、色覚特性や利き手への配慮がみられるなどユニバーサルデザインである。
	○「中学生書写スタートブック」（p. 30～35）では小学校の学習の確認ができる。また、巻末の「なりきり、書聖王羲之」（p. 165）では高校書道（芸術）へのつながりが図られるなど小中高の接続をなめらかにしている。					

選 定 に 必 要 な 資 料

社会（地理） No. 1

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
A	○「世界と日本の地域構成」は13時間、「世界とのさまざまな地域」は40時間、「日本のさまざまな地域」は57時間の配当時数となっており、「持続可能な地域の在り方」を最後の編に含んでいる。 ○「スキル・アップ」と「資料から発見」でグラフの読み取りなど資料の読み取り方の道筋が丁寧に示されている。(p. 15、76)	○内容ごとに「学習課題」「チェック」「トライ」を設け、本時の問いとそれに対するまとめができるように工夫されている。また、「地理を学ぶ5つのミカタ」で視点を示して思考が深まるよう工夫されている。(p. 6、10～11) ○单元ごとに「まとめの活動」が示されており、言語活動の充実を図る工夫がなされている。(p. 74～75)	○世界や日本の各地で暮らす中学生が自分の住んでいる地域を語る「聞かせて！中学生」を設け、世界を身近に感じることができるよう工夫されている。(p. 60) ○「世界の諸地域」や「日本の諸地域」の導入では、大きな写真資料と学習課題に関連する資料を掲載し、関心をもって課題をとらえることができるよう工夫されている。(p. 118～119、196～197) ○1時間の授業で扱う学習課題についてサブタイトルがあったり、日本の諸地域では、それぞれの地方の導入に都道府県章・シンボルを掲載したりして、生徒の興味・関心を引くように工夫されている。(p. 10、184)	○「領土問題を抱える島々」の学習では、竹島について写真や地図が掲載され、隠岐の島町であること、韓国の不法占拠に日本が抗議していること、自然環境や豊かな漁業資源があることなど地理的特色が記載されている。(p. 28) ○海士町の遠隔授業や松江市のRubyを活用した地域おこし、浜田自動車道の開通による人の移動の変化を取り上げている。(p. 199、201、205)	○これからの社会を考えるきっかけとして、「未来にアクセス」というコラムを設け、身近な視点で社会的な問題を考えることができるよう工夫されている。(p. 39) ○「もっと知りたい」というコラムでは、本文に関連する内容をさらに広げたり、違う視点でとらえることができ、家庭で学習する際に使いやすく工夫されている。(p. 11) ○「デジタルコンテンツを活用しよう」では、写真や動画、ドリルなど家庭でも様々な学習ができるよう工夫されている。(巻末3)	○单元ごとに設けられた「探求課題」を单元末に話し合い、深めることができるよう構成されている。また、その際に思考ツールを活用し、思考力、判断力、表現力等を身につけることができるよう工夫されている。(p. 126～127) ○それぞれの単元の構成が「課題をつかむ」「課題を追求する」「課題を解決する」の構成になっている。(p. 4)
	○各单元のはじめに「小学校の社会で習ったことば」が示されており、小学校での既習事項がわかる工夫がされている。(p. 8)					

選 定 に 必 要 な 資 料

社会（地理） No. 2

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	(感性をはぐくむ要素を含む)
G	○「世界と日本の地域構成」は9時間、「世界のさまざまな地域」は36時間、「日本のさまざまな地域」は58時間の配当時数となっており、地域の未来について考える「地域のあり方」を最後の編に含んでいる。 ○写真や資料が大きく、見開きの内容構成が統一されており、学習しやすい。(p. 90～91)	○内容ごとに「学習課題」「確認」「表現」を設け、問いとそれに対するまとめができるように配慮されている。「学習したことを振り返ろう」で、思考力、判断力、表現力等を高めることができるよう工夫されている。 ○単元末に学習したことを活用してまとめる場を設け、自分の言葉でこれまでの学習を振り返り、学びが定着するよう工夫されている。(p. 185)	○折り込みページでは、宇宙からとらえた日本列島と伊能図を並記し、日本地理の学習や地図を活用した学習への興味・関心を高める工夫がされている。(p. 128～129) ○見開き左上の写真や地図をもとに、生徒キャラクターが「なぜ、どうして」と問い、生徒が考えやすくなっている。(p. 52) ○「地理の窓」や「都道府県の特産品に関連させたキャラクターの例」など、生徒の興味・関心を高める工夫がされている。(p. 22～23)	○竹島の写真と地図(南東を上にした位置図)が掲載され、島根県への編入の経緯と韓国が不法に占拠するまでの経緯、日本が抗議し、話し合いを提案しても韓国が受け入れていないことが記載されている。(p. 21) ○「三江線廃止」の内容が写真資料として掲載され、過疎化の課題について考えることができるよう工夫されている。(p. 192) ○石見神楽、海士町のロゴマークやかんこ舟、松江市の雨温図、石見空港の現状が取り上げられている。(p. 186～187、189、197)	○6つのテーマで持続可能な社会に向けて考察できる「クロスロード」や第4章「地域のあり方で、社会参画への意識や、持続可能な社会の創造への意識が高まるよう工夫されている。(p. 260～261、278～287) ○「地理にアプローチ」や「地理の技」では、基礎的な技能を身につけることができるよう工夫されている。(p. 2～4、7、10、27) ○各編の扉の二次元コード「学びリンク」では、学習内容に関連するサイトが紹介され、学習を広げ、深めることができるよう工夫されている。(IV)	○写真や資料が大きく、見開きの内容構成が比較的統一されており、授業を展開しやすい。 ○基礎的、基本的な内容を重視し、資料や統計等が盛りだくさんとならないよう、精選された構成になっている。 ○本文に太字を多く取り入れ、キーワードとして基礎的内容を理解できるように構成されている。
	○冒頭のページでは、小中学校の学習の接続や地理的な見方・考え方、地図のきまり等がわかりやすく説明されている。					

選 定 に 必 要 な 資 料

社会（地理） No. 3

記 号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
J	○「世界と日本の地域構成」は8時間、「世界のさまざまな地域」は41時間、「日本のさまざまな地域」は56時間、「地域のあり方」に5時間の配当時数となっている。 ○巻頭の「教科書を活用した学び方」では、主体的な学びや対話的な学びについてわかりやすく説明している。(巻頭5-6) ○世界の諸地域では、「写真で眺める○○州」のように単元の学習の見通しができるよう工夫されている。(p. 46～47)	○地図やグラフが多く記載され、詳しく学習できる構成になっている。 ○単元末の「学習を振り返ろう」では、知識を確かめ、段階を踏みながら、地理的な見方・考え方を働かせて学習をまとめることができるよう工夫されている。(p. 13) ○1時間の授業の中で、「確認しよう」や「説明しよう」の項目を設定し、まとめがしやすい工夫がなされている。	○写真や地図が大きく、生徒の興味関心を引く工夫がされている。 ○「日本の諸地域」では、各地方の導入で、イラスト入りの地図を提示し、興味関心を高める工夫をしている。(p. 167) ○各章の導入ページにQRコードがあり、ICT活用がしやすいように工夫されている。 ○学習内容に関連のある話題を取り上げた「地理プラス」や環境・防災・人権など6つのコラムが掲載されている。「未来に向けて」では、学習への興味・関心を高めたり、学びを深め、広げることができるよう工夫されている。(p. 83、85)	○「日本の領域と特色」の学習では、竹島について本文記載があり、写真や地図が掲載されている。さらに、2月22日が竹島の日であることや昔の竹島の漁業についても記述されている。(p. 20～21) ○「人々を呼び寄せる地域の取組」で、出雲大社や石見神楽の写真、島根県を訪れる観光客数の推移がグラフとして掲載されている。(p. 194) ○「都道府県と都道府県庁所在地」で、城下町として発展した町として松江市が掲載されている。(p. 23)	○分野間のつながりを通して生徒が社会的事象を考えたり、学びを深めたりするために「地図帳活用」を設け、地図帳と学習内容のつながりがわかりやすくなるよう工夫されている。(巻頭10、p. 16) ○「技能をみがく」の内容が多く記載され、基礎的な技能を身につけることができるよう工夫がなされている。(p. 5、29) ○巻頭の「教科書を活用した学び方」で、QRコンテンツについてわかりやすく説明し、家庭学習に活用できるよう工夫されている。(巻頭6)	○島根県に関する記載が多く、生徒にとって身近な内容が記載されている。 ○「地理的な見方・考え方」がわかりやすく記載されている。(巻頭8) ○「日本の諸地域」の内容が非常に詳しく記述しており、より詳細に学習することができる。内容も豊富である。 ○單元ごとに設定されている「問い」を意識しながら授業を展開できるよう工夫しており、単元末には、学びを深めるために対話的な学習課題が設定されている。(p. 48、62～63)
	○小学校や他分野・他教科との関連があるページの下には、分野・教科とその内容が示されており、教科、分野横断的な学習に対する配慮がある(p. 2)					

選 定 に 必 要 な 資 料

社会（地理） No. 4

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	(感性をはぐくむ要素を含む)
O	○「世界と日本の地域構成」は12時間、「世界とのさまざまな地域」は36時間、「日本のさまざまな地域」は60時間の配当時数となっており、「地域の在り方―宮崎市を例に一」を最後の編に含んでいる。 ○大きめな文字とすっきりとした内容構成により、焦点を絞った学習が展開できる。(p. 52～53)	○「地理的な見方・考え方」は、学習課題をさらに深めるために効果的であり、思考力の育成につながることで、今日の課題に関心が抱けるよう工夫がなされている。(p. 50) ○各ページのQRコードの位置が固定されており、活用しやすくなっている。	○QRコンテンツにある「イントロダクション・ムービー」により、州・地方を象徴するトピックを掘り下げ、学習を見通すことができる。(巻頭8) ○生徒にとって関心を抱くような写真を採用している。(p. 2～3)	○竹島の地図(位置図)と写真が掲載され、島根県への編入の経緯と韓国の不法占拠について、日本が平和的な解決をめざしていることが記載されている。また、「竹島資料室」や「領土・主権展示館」の写真が掲載されている。(p. 20～21) ○海士町の「島留学」を通した地域活性化の取組が紹介され、魅力づくりについて考える工夫がされている。(p. 199)	○QRコンテンツにある「確認小テスト」を活用することで、家庭でも復習ができるよう工夫されている。(巻頭8) ○「地理+α」は、身近な話題や時事、社会問題と関連した内容が網羅されており、授業と日常のつながりを期待できる。(巻頭9)	○本文の文章は一文が短く、読みやすく端的で、わかりやすい内容になっている。 ○学習のまとめで、ポートフォリオを活用することにより、指導と評価の一体化が図られている。生徒が主体的に取り組む態度を養うために有効である。
	○地理的な見方・考え方について、見開きの大きなイラストを活用し、わかりやすい言葉で解説している。(巻頭3～4)					

選 定 に 必 要 な 資 料

社会（歴史） No. 1

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	(感性をはぐくむ要素を含む)
A	○内容、分量ともに適当であり、わかりやすい表現となっている。 ○学習を進めるために適切な資料（写真・地図・文献など）が豊富に使用されており、資料を読み取る視点を示すなど、知識・技能の習得を図る工夫がなされている。 ○「スキル・アップ」では複数の資料を読み取り、そこから当時の状況を考えさせる場面を設定するなど、未知の状況にも対応できる思考力や判断力を育成する工夫がみられる。	○単元を貫く「問い」を中心とした課題解決的な単元構成（紙面構成）になっている。 ①単元の導入における探求課題の設定 ・資料の読み取り等の活動を通して、課題を設定 ②探求課題の追求 ・授業ごとの学習課題（問い）の考察と振り返り ③節ごとの探求課題に迫る問いの解決 ④探求課題の解決（単元のまとめ） ・対話的な活動と思考ツールの活用によるまとめ ○「みんなでチャレンジ」の欄を設け、協働的な活動を促している。 ・個人活動とグループ活動が設定されており、協働的な学びを意識している。	○章の始めの「導入活動」には、小学校で学習した人物や事象をイラストで描くキャラクター年表や当時の町の様子を配置するなど、誰もが歴史に親しみを抱きやすい工夫がなされている。 ○動画や資料を見ることのできるQRコンテンツを豊富に配置し、生徒が視覚的に興味をひく、当時の様子をイメージしやすい工夫がなされている。 ○「もっと知りたい」では、歴史に興味・関心をひく話題、内容となっている。	○時代ごとの「地域の歴史を調べよう」では、生徒が暮らす地域の調べ学習の参考となるよう、テーマ設定からまとめまでの流れで構成されている。 ○島根県に関連する資料や事象も掲載され、島根県への理解と親しみが深まる内容となっている。 ・現代に生きる神話（p. 58）～出雲神話 ・石見銀山がのったヨーロッパの地図（p. 180）～世界との結びつき ・領土をめぐる問題の背景（p. 176）～竹島の歴史 ・森鷗外（p. 195）～「舞姫」「最後の一句」の紹介 ○同和問題学習については、各時代で適切に扱われている。「解放令」から水平社への内容（p. 240～241）は、特に詳しい内容となっている。	○個別最適な学びや協働的な学びを意識し、導入、展開、まとめの学習段階に応じたQRコンテンツが配置されている。生徒は生徒端末を使い、資料から読み取ったことや学習のまとめをワークシートに記入するなど、主体的に学習に取り組むことができる。家庭でも学習することができる。 ○単元のまとめ（p. 140～p. 142 など）では、「くらげチャート」、「Yチャート」、「フィッシュボーン図」など様々な思考ツールを使ったまとめ方を行うことで、生徒の思考力、判断力、表現力を育成すると同時に、生徒がより簡単に分かりやすくまとめができるように工夫されている。	○内容や使用されている資料など、バランスがとれている。 ○課題を自分たちで見つけ、課題を追求、解決するといった課題解決的な学習が教科書全体で取り入れられており、生徒の資質・能力の育成に適している。
	○QR コンテンツが豊富に配置されている。特にワークシートは Word・PDF のどちらもあり、生徒が書き込んだりまとめたりすることができる。 ○字の大きさもできるだけ大きくし、読みにくい漢字には、ふりがながふられている。 ○資料掲載部分に背景色を入れる、QR コンテンツへの移行によるページ数の削減、カラーユニバーサルデザインの導入、UD フォントの導入など、生徒の多様性に配慮が行われている。					

選 定 に 必 要 な 資 料

社会（歴史） No. 2

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
G	○写真資料やグラフ、絵や地図が多く、本文の量が比較的少ない。重要事項が簡潔にまとめられている。 ○巻頭で、小学校の内容についてパズル等を使って楽しく振り返ることができ、発達段階に応じて無理なく学習が進められるように工夫されている。	○「学習のはじめに」で、各単元を象徴する資料や問いがあり、見通しをもって学習に取り組むことができる。 ○「確認」「表現」で各時間の学習内容の確認とまとめができる。 ○「節をとらえる」で、小単元のまとめができる。	○各時間の導入の問いと問いにかかわる資料(写真・図版)がセットで示しており、生徒が意欲的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○各章の「学習のはじめに」で資料が大きく示されており、時代の特色を視覚的にとらえ、これからの学習に対する興味関心を高めることができる。	○「学習のまとめと表現」で、年表で歴史の流れを確認することで知識の定着が図れ、歴史的な見方・考え方を使って時代の特色を表現することにより、思考力・判断力・表現力を高めることができる。 ○「歴史の技」で、資料(地図、史料等)の読み取りのポイントを示しており、QRコードを読み取ることで説明動画を見ることもでき、技能の定着を図るための工夫がある。	○歴史の窓」で関連するコラムがあり、やや発展的な内容を扱っている。 ○SDGs、防災、感染症等現代社会の課題について考える特集ページがある。 ○「歴史学習の終わりに」では、歴史学習を振り返って、現代の課題を考察し、未来を構想する学習活動により、公民学習への接続が図られている。	○単元ごとに、単元の導入→各時間の問いと「確認」「表現」→節ごとの振り返り→単元末の「学習のまとめと表現」という構成になっており、単元をとおして、見通しをもって学ぶことや歴史の流れや時代の特色をとらえられるような工夫がみられる。

選 定 に 必 要 な 資 料

社会（歴史） No. 3

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
J	○内容、分量ともに適当であり、わかりやすい表現となっている。 ○学習を進めるために適切な資料（写真、地図、文献等）が豊富にあり、本文とのバランスも良い。	○大単元ごとに、章のはじめに「章の問い」「節の問い」があり、章末で「学習事項の確認」、「節の振り返り」「章の振り返り」があることで、知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力の育成が図られる。また、見通しをもった学習ができるよう、構成が工夫されている。さらに、各時間でも「学習課題」と「確認しよう」「説明しよう」があり、1時間単位での学びを章や節のまとめにつなげる工夫がある。	○「タイムトラベル」では、各時代の様子が見開き2ページの絵になっており、当時の生活の様子や他の時代との比較ができ、学習への興味・関心が高まるような工夫がされている。 ○QRコードを読み取ることで、様々なコンテンツに接続でき、生徒の興味・関心に応じて学ぶことができる。	○巻頭のページで歴史的な見方・考え方について具体的にわかりやすく示されている。 ○「世界とのつながりを考えよう（p. 50、78、168、…）」では、日本史と世界史を関連づけて考えられるようになっている。 ○「アクティブ歴史」では、資料を読み取り、考察することができ、資料を適切に読み取る技能の育成が図られている。 ○人権問題について、適切に記載されている。 ・中世の老人・子ども、女性（p. 93） ・庭園づくりで活躍した河原者（p. 101） ・差別された人々（p. 137） ・全国水平社（p. 241） ○島根県に関する資料や事象が扱われている。 ・荒神谷遺跡の銅剣（p. 29） ・石見神楽（p. 49） ・石見銀山（p. 113） ・竹島問題（p. 287） ・阿国歌舞伎（p. 123）	○各章のまとめの最後に、歴史と現代社会とのつながりやSDGsとのつながりについて考えさせるような課題や活動が設定されている。 ○QRコードを読み取ることで、確認クイズやNHK for schoolを見ることができ、生徒自身が主体的に学ぶことができる。	○単元ごとに、章の導入→各時間の問いと「確認」「表現」→節ごとの振り返り→単元末の「学習事項の振り返り」「節・章のふりかえり」という構成になっており、単元をとおして、見通しをもって学ぶことができる。 ○QRコンテンツが豊富で、それらのコンテンツを使った効果的な指導ができるだけでなく、生徒自身が主体的に学ぶこともできる。
	○QRコードを読み取ることで、単元の導入の活動、振り返りのワークシート（Word・PDF）のダウンロード、NHK for schoolへのリンクなどができる。特に思考ツールや白地図もダウンロードでき、生徒がこれらのツールを活用してまとめることができるよう工夫されている。					

選 定 に 必 要 な 資 料

社会（歴史） No. 4

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
M	○内容は適当であるが、分量は文章量を含めやや多く、「受領」「サファヴィー朝」「国立銀行条例」など詳細な語句が太字となっており、詳細な歴史的知識が身につく構成となっている。 ○章末では時代ごとのまとめのページが設定されており、時代や出来事についての背景や変化をふりかえる枠組みが示されている。また、中世では「〇〇の立場に立ってみよう」といった多角的考察を行うための工夫も見られる。	○各タイトルにその時間の学習課題が示されている。 ○各章の冒頭に日本史・世界史並列の年表が掲載されていると共に、時代の概略を紹介する記述があり、大まかな時代像をとらえる工夫がなされている。 ○一つのタイトル中の資料について、1～2問程度の発問が用意されており、歴史への理解が深まるとともに思考を働かせる工夫がなされている。 ○裏表紙に世界地図がついており、国の位置などを確認しやすい。	○2節に1回程度の割合で、2世紀、8世紀の世界といった形で、その時代の世界の歴史的事象と日本の主要な事象を世界地図上にイラストで示して紹介し、歴史への興味・関心を高める工夫がなされている。 ○コラム「地域からのアプローチ」によって、学習している時代ごとに結びつきの強い県の歴史事象を紹介し、地域史への興味・関心を高める工夫となっている。	○島根県に関する資料や事象が扱われている。 ○巻頭「日本の世界遺産」では石見銀山の間歩を写真と解説で掲載 ○p. 113「イエズス会宣教師によってつくられた日本地図」にて「Hivami（石見）」の記載と銀の産出量増大を紹介 ○p. 269「日本の領土の変遷」にて竹島について地図と共に記述されている。	○各内容に詳細な用語解説が掲載されており、発展的内容をとらえるための補助がなされている。 ○コラム「歴史を考えよう」にて、美術作品やグラフなどの資料の読み取りを通じて、歴史的思考を深めるための工夫がなされている。 ○各タイトルの終末に「ステップアップ」という項目があり、より発展的な内容に取り組めるようになっている。	○各章の冒頭で日本史・世界史へ並列の年表が配置されていることもあり、時代背景や状況について世界の歴史との結びつきをふまえて考えることのできる構成となっている。 ○詳細な歴史の重要語句が太字となっており、より多くの歴史的知識を身につけることのできる教科書であるといえる。
	○「世界の中の日本の歴史」を常に意識させるような構成・内容となっている。					

選 定 に 必 要 な 資 料

社会（歴史） No. 5

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
○	○内容、分量ともに適当であり、分かりやすい表現となっている。 ○編ごとに「編の問い」「節の問い」といった単元を貫く問いが設定してある。 ○各編の各節や時間ごとのまとめで使えるポートフォリオや特設単元に関するワークシートなどがPDF、Word、Googleドキュメントの形式で用意されている。	○各タイトルにその時間の学習課題が示されている。 ○よりよい未来の創造という観点から、SDGsに関わる各時代の先人たちや各時代に活躍した女性についても紹介されており、次世代の主権者を育てるための教材が選定されている。 ○裏表紙には、年表とともに旧国名を表記した地図や主なできごとと史跡・関係地をまとめた地図が用意されている。	○QRコードを読み取ると、編の導入となる「イントロダクションムービー」が用意されているほか、「確認小テスト」で手軽に既習事項の確認ができるなど、興味・関心が高まる工夫がなされている。 ○各章の導入ページでは、前の時代と学習する時代の資料が並べて掲載されており、前後の時代を比較したり、その推移を読み取ったりしながら、学習する時代への興味・関心が高まるように工夫されている。	○巻頭にて「歴史的な見方・考え方」について着目する4つの視点を紹介し、歴史学習を進めていく上で見方・考え方を働かせられるようにしている。 ○島根県に関する資料や事象が扱われている。 ○p. 51「佐田神能」が写真と共に神話を題材とした民俗芸能として紹介されている。 ○p. 117「石見銀山」が「地域に学ぶ」のコラムで石見銀山世界遺産センターのリンク付きで紹介されている。 ○p. 207「森鴎外」が写真付きで本文に掲載されている。 ○p. 286「竹島問題」が日本の領土問題をまとめてある項で紹介されている。 ○人権・同和問題に関して、時代ごとに適切に取り扱われている。	○「でかけよう！地域調べ」の特設単元によって、平城京や姫路城などの事例を用いながら、地域調査の進め方についての例示がなされており、地域学習への関心が高まる内容となっている。 ○各タイトルの終末に「確認」「表現」という項目があり、学習した内容を確認するとともに、学習内容について思考を働かせることができる課題が設定されている。	○編ごとに「編の問い」「節の問い」といった単元を貫く問いが設定してあることから、見通しをもって学習に取り組めるとともに、問いについて探究していくことで主体的・協働的な学びができるように構成されている。 ○掲載されている教材の中には、SDGsとの関連したものも取り入れられており、持続可能な社会について考えることができるつくりになっている。

選 定 に 必 要 な 資 料

社会（歴史） No. 6

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
Q	○分量、程度は適当である。 ○歴史的事象が文章で詳しく説明され、各ページに用語解説があり、知識習得の工夫がなされている。 ○「神話が語る国の始まり」、「条約改正への苦闘」、「国家の命運をかけた日露戦争」など、メッセージ性のあるタイトルや1時間の授業構成となっている。	○単元の始めの「導入活動」では、年表が示されており、そこには小学校で学んだ人物を中心に紹介が行われ、小学校での学習とのつながりがわかりやすくなっている。 ○単元終わりの「対話とまとめ図のページ」の年表と単元の始めの年表がつながっており、単元同士のつながりや歴史の流れが捉えやすくなる工夫がある。 ○「古代の文明のまとめ」(p. 27)、「鎌倉新仏教の6大宗教」(p. 82)、「幕府の経済政策の変遷」(p. 136)など、特徴を比較しやすい表にまとめられている。	○文章の説明は丁寧で分かりやすい。 ○1時間ごとの学習のタイトル、コラム「もっと知りたい」や「知っとくポイント」の内容は、歴史の面白さを感じさせるものとなっている。 ○同じ用語に関連する記事がある場合、掲載ページが追記されている。 ○歴史モノサシが示され、どの時代を学習しているか明示されている。 ○キャラクターのコメントにより、資料を見る視点や考える視点が効果的に提示されている。	○単元の終わりに、「調べ学習のページ」が設定され、資料から考察しまとめる作業が設定されている。 ○島根県に関連する資料や事象も掲載され、島根県への理解と親しみが深まる内容となっている。 ・国譲り神話と古代人 (p. 40、41) ・日本の世界文化遺産 (巻頭 p. 2、93) ・出雲阿国と歌舞伎 (p. 119) ・尖閣諸島と竹島の領土編入 (p. 173) ・森鷗外「舞姫」、「高瀬舟」 (p. 203) ・李承晩ラインと竹島問題 (p. 263) ○人権問題について、江戸時代の身分制度 (p. 127) や身分制度の廃止 (p. 167)、女性の地位向上 (p. 215)、全国水平社 (p. 219) が書かれている。	○1時間の授業ごとに学習課題が明示されており、授業の最後にチャレンジによって、学習の振り返りが行えるようになっている。 ○単元の終わりには、「復習問題のページ」があり、基本用語や地名の確認がテスト形式で行えるようになっており、生徒の自学自習に活用しやすい。また、「時代の特徴を考えるページ」の問題を解くことで、時代の特徴をつかむとともに、生徒の思考力・判断力・表現力を育むことができる。歴史が苦手な生徒も、「対話とまとめ図」を読むことで、時代の特徴を大まかに捉えることができる。	○歴史事象や語句について、詳細に説明されており、知識を深めることができる。 ○基本用語や地名、大まかな時代の特徴など、歴史が苦手な生徒でも復習しやすくなっている。
	○字の大きさをできるだけ大きくし、読みにくい漢字には、ふりがながふられている。 ○資料（写真・地図・文献など）が可能な限り大きく配置されており、これまでの教科書で扱われていなかった資料が多く掲載されている。					

選 定 に 必 要 な 資 料

社会（歴史） No. 7

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
R	○文章資料の量がやや多い。また、本文の横に重要語句の説明や時代背景の詳細が記されている。 ○わかりやすい文章で書かれており、ふりがなもふってある。	○「歴史絵巻」で単元の歴史の流れがイラストでわかりやすく描かれている。 ○節の問いと各時間の問いが併記しており、見通しをもって学習ができる。	○単元の最初に各時代の人々の生活がわかるような資料と質問が書かれており、これからの学習に興味・関心を高める工夫がある。 ○各単元の最初に「虫の目で見ると」というページがあり、大きな資料で生徒の興味・関心をひくことができる。 ○巻頭で、小学校で学習した歴史人物についてイラストを使ってわかりやすく復習ができるようになっている。 ○キャラクターのコメントにより、資料を見る視点や考える視点が効果的に提示されている。 ○歴史モノサシが示され、どの時代を学習しているか明示されている。	○歴史的な見方・考え方を働かせるための指示や質問が記載されている。 ○各単元の終わりに、年表や地図、資料を使って学習を振り返るようになっており、知識の定着を図る工夫がある。また、時代の特色について表現する活動により、思考力・判断力・表現力の育成を図っている。 ○同和問題学習にかかわる内容が各時代で適切に記載されている。 ・庭園づくりで活躍した河原者 (p. 93) ・江戸時代の身分制度 (p. 121) ・全国水平社 (p. 217)	○現代社会の課題（少子化、震災、感染症等）について、歴史的経緯をふまえて考えることができる特集ページがある。 ○「歴史ズームイン」で学習内容をさらに深めるような特集ページがある。 ○島根県にかかわる資料が掲載されている。 ・国譲り神話 (p. 54～55) ・石見銀山 (p. 89) ・森鷗外 (p. 199) ・竹島問題 (p. 257)	○単元のはじめに大まかな流れを示し、単元末でまとめることができる構成になっている。

選 定 に 必 要 な 資 料

社会（歴史） No. 8

記 号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
U	○写真などの資料よりも文章の量が多いが、わかりやすい文章で書かれており、読みごたえのある内容となっている。 ○古事記や日本書紀における天皇の祖先についての記述や、政治の中心が幕府にあった時代でも天皇と幕府とのかかわりなど、詳細な内容が記述されている。	○各時間の問い（課題）があり、本文や資料を読むことで課題が解決できるような構成になっている。 ○章（大単元）の始めに、主なできごとの年表と単元にかかわる課題があり、章末に詳細な年表とまとめ学習のページがあり、歴史を大観し、まとめることができるような構成になっている。	○章（大単元）の最初に学習内容を象徴するようなイラストが描かれている。 ○巻末にはカラー写真がふんだんに掲載されており、歴史学習に興味・関心を高める工夫がある。 ○巻末に、歴史小説・歴史漫画が紹介されている。	○各章の終わりに、まとめ学習として、各時代の特色について表現することにより、思考力・判断力・表現力の育成を図っている。 ○巻末に各時代の日本と世界の様子が見えるような地図が掲載されており、世界の歴史との横のつながりがわかるようになっている。 ○島根県の歴史にかかわる内容が記載されている。 ・古事記の国譲り神話 (p. 39)	○随所にコラムや注釈があり、発展的な内容を扱っている。 ○巻末の「歴史学習の幅を広げよう」のページで歴史学習の方法やその注意点について書かれている。 ○単元末には、レポートや新聞の書き方、ディスカッションとディベートの違いなどが書かれており、生徒の思考力・判断力・表現力を育成することができるよう工夫されている。	○より深く広い情報が掲載されており、歴史が好きな生徒にとって、興味をもって読むことができ、歴史学習をもっと深めたいと思わせる内容になっている。

選 定 に 必 要 な 資 料

社会（公民） No. 1

記 号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
A	・見開きで授業内容がまとめられおり、内容を理解しやすい。 ・資料のスペースが大きくなっていて、文字の圧迫感がない。 ・重要な内容はイラストや注釈を交えて示してある。 ・歴史、地理との関連を示すマークにより、振り返りが容易にできるようにしている。	・章の最初に小学校で習ったことを入れ、スムーズに各章の学習ができるようにしている。 ・探求のステップによって、単元を通しての視点が書かれている。 ・QRコードでワークシートや参考法令、独自のUIを用いたD-MOVEにアクセスできる。	・「チェック」で重要な語句を抜き出し基礎的な知識を意識させた後、「トライ」で探求課題に迫るよう工夫されている。 ・単元の導入で対話形式により探求課題を設定し、生徒の課題意識を高めるよう工夫されている。 ・QRコードで、自分の習熟度に応じて学習に取り組めるよう工夫されている。	・竹島については、竹島が不法占拠されるまでの歴史的な経緯などが示されており、図や写真、新聞の切り抜き等が示されている。 ・再生可能エネルギーの項目で、出雲市の風力発電所が写真資料で紹介されているため、生徒の興味・関心を高めやすい。	・章のまとめでは、「確かめよう」で知識の定着、「ふり返ろう」で探求課題の振り返り、「深めよう」では思考ツールを用いながら発展的な演習課題を行い、生徒の学習理解に応じた家庭学習ができるよう工夫されている。 ・「もっと知りたい」で、発展的な内容を扱い、生徒の興味関心を高めるよう工夫されている。	・資料のスペースが大きく、必要な情報等が見やすい。 ・QRコードから外部リンクへアクセスできるため、発展的な学習に活用しやすい。 ・学習のまとめが充実しており、発展的な学習や家庭学習が行いやすい。 ・章末ページで、公民的資質を伸ばすよう工夫されている。
	・「18歳へのステップ」という章末ページを通して、公民的資質を伸ばすよう工夫されている。					
G	・色分けや、図説が適切に扱われており、視覚的に内容が理解しやすい。 ・生徒が混乱しやすい内容は、動画にアクセスできるQRコードを掲載し、わかりやすく説明されている。 ・文章表記が平易で、誰でもわかりやすい内容となっている。	・各章ごとにSDGsとの関連がわかりやすく配置されている。 ・「学習のはじめに」で章の見通しをもち、本時の「学習課題」で内容を理解、特設ページで発展的学習、章末のまとめで思考力・判断力・表現力を伸ばす構成となっており、系統立てて、学習に取り組める。	・各章の初めに、四択の「語句クイズ」のQRコードが掲載されており、楽しんで取り組めるよう工夫されている。 ・わかりやすく見やすいグラフや資料を用いた問いによって、生徒の興味・関心、資料活用能力を伸ばすよう工夫されている。	・竹島については、日本の領土問題と合わせて写真と説明が掲載されている。次ページにて、近隣諸国との外交問題が取り上げられている。 ・地方自治の図版で海士町が取り上げられており、地域の抱える課題に対する生徒の意識が高まりやすい。 ・大田市の企業が章末で紹介されており、生徒の郷土に対する誇りが高められる。	・「学習のまとめと表現」には「まとめワーク」のQRコードが掲載されており、家庭学習や発展学習が行いやすい。また、各節ごとの内容を問題形式で穴埋めする形になっており、学習を振り返りながら、まとめを行うよう工夫されている。	・SDGsとの関連がわかりやすく配置されているため、持続可能な社会の創造をめざす意欲を高めやすい。 ・「学習のまとめと表現」で各章の内容がまとめやすく、家庭学習に取り組みやすい。 ・QRコードによって、生徒が混乱しやすい内容を説明している。
	・「持続可能な社会にむけて」という章末ページを通して、社会への関心を高め、主権者として社会参画していこうという意欲を伸ばすよう工夫されている。					

選 定 に 必 要 な 資 料

社会（公民） No. 2

記 号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
J	- 写真資料が大きく、本文の内容表現も平易で理解しやすい。 - 資料と本文の配置に工夫があり、視認性も高い。 - QRコードでアクセスできるページが非常に使いやすく、理解もしやすい。	- 小学校、歴史、地理の既習事項が章の初め、見開きの下部に記載されており、関連付けしやすいよう工夫されている。 - 単元の冒頭で写真やイラストを用いて、単元を貫く問いを設定し、章末の「学習を振りかえろ」で単元を貫く問いを思考ツールなどを用いて、わかりやすくまとめることができる。	「公民プラス」のコラムで、最近の話題が多く記載されており、生徒が興味・関心を持ちやすい。 - 掲載資料の活用の視点を示すことで、学習がしやすくなっている。 「アクティブ公民」でシュミレーション型の課題を設定することで、具体的でわかりやすく、興味を持って学習に取り組むことができる。	- 竹島については、位置が地図で示してあるほか、注釈でサンフランシスコ平和条約締結の際のいきさつが示されている。 - QRコードの他分野リンクを利用することによって、歴史教科書の記述を確認し、竹島問題について学ぶことができるよう工夫がされている。 「地図帳活用」のアイコンで竹島の位置を詳しく確認できる。	- QRコードにアクセスすることで、多くの思考ツールについての動画を閲覧することができるため、自分の考えをまとめやすい。 - 各章末にある「アクティブ公民」のページによって、身近な課題について話し合う発展的な学習ができるようになっている。	- 写真資料が大きく、本文の内容表現も平易で視野性も高いため、教科書の内容を理解しやすい。 - QRコードでアクセスできるページが便利で、タブレットを使った学習が行いやすい。 - 社会参画を疑似体験できるよう工夫されている。 「地図帳活用」のアイコンで地図帳が日々の学習で活用できるようになっている。
	「未来に向けて」というページでSDGsへの意識を高めるよう工夫されている。地図帳が活用できるよう「地図帳活用」のアイコンが準備されている。					
O	- 写真やイラストの資料が学習内容を理解しやすい。 - ユニバーサルデザインフォントが使用されており、読み取りやすい。 - 本文の平易な表現や丁寧な記述で、生徒の学習がしやすくなっている。	- 主体的・対話的で深い学びを実現するため、見開きページに「学習課題」重要語句の「見方・考え方」を示している。 - 各ページの下部に1時間の学習で意識してほしい節の問いや他分野との関連を示し、思考が深まるよう工夫されている。	「公民+α」や「アクティビティ」で時事ネタやコラムなどを掲載し、関心や意欲を高めるよう工夫されている。 - 特設ページで実際に点字を記載するなど工夫されている。 - QRコンテンツによる動画視聴により、興味や関心が高まるよう工夫されている。	竹島については、日本の領土をめぐる問題のページで写真とともに掲載されており、国際司法裁判所での解決を提案していること、韓国がそれを拒否していることについて示してある。次ページでは、領土問題を抱える地域が紹介されており、竹島の日の式典の様子が掲載されている。	- 各ページに掲載されているQRコードを利用して小テストに取り組むことで、家庭学習の定着がはかれる。 - 本文の内容が理解しやすいように学習課題に応じた「確認」「表現」の問いが準備されている。	- 本文の平易な表現や丁寧な記述で、生徒の学習がしやすい。 「公民+α」など、時事ネタや教材が多く掲載されている。 - 各見開きにQRコードが用意されており、学習に活用しやすい。 - 自らの人生を主体的に切り拓く力を伸ばすよう工夫されている。
	「明日に向かって」という特設ページを通して、自らの人生を主体的に切り拓く力を伸ばすよう工夫されている。「アクティビティ」というコラムを通して、資料の読み取りや協働的な学習が効果的にできるよう工夫されている。					

選 定 に 必 要 な 資 料

社会（公民） No. 3

記 号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	(感性をはぐむ要素を含む)
Q	・図表がとても単純で、資料を読み取ることが苦手な生徒でも読み取りやすい。 ・各ページの余白が多く、内容量の圧迫感を生徒に与えない。 ・学習内容を必要なことだけに絞ることによって、知識の定着がしやすいようになっている。	・見開きごとの写真やデータが少なめに構成されており、教科書の本文に集中しやすいよう工夫されている。 ・「学習のまとめ」と発展のページで最重要語句の確認や字数制限を設けた課題により、思考力や表現力が身に付けられるよう工夫されている。	・「もっと知りたい」では、見開きで今日的な課題について詳しく取り上げ、生徒の興味・関心を高める教材が多く取り上げられている。 ・「アクティブに深めよう」では、思考力・判断力・表現力を伸ばすための課題が簡潔に示され、誰でも取り組みやすいようになっている。	・竹島については、竹島がわが国古来の領土であることに加え、韓国政府の見解や、日本が国際司法裁判所へ提訴しているが、韓国政府が応じていないことなど詳しく記述されている。 ・2016年参議院選挙から合区が採用されたことと特定枠について側注解説で扱い、選挙制度に対する問題提起を行っている。	・章の終わりの「学習のまとめと発展」で重要語句が一覧にまとめられており、家庭学習に活用しやすい。また、小論文形式の発展課題も設定され、発展的な学習が家庭で行いやすいようになっている。 ・終章では、まとめの学習として卒業論文をつくる発展課題やディベート課題が設定されている。	・見開きごとの資料が精選しており、生徒が学習に集中しやすいよう工夫されている。 ・文字の大きさが大きめで、非常に視認性が高い。 ・「もっと知りたい」において、様々な時事問題が取り上げられており、発展的な学習に取り組みやすい構成になっている。
	天皇の役割、自衛隊と日米安全保障条約・集団的自衛権について、など、有権者として理解しておかなくてはならない現代的課題や歴史的課題について大きく取り上げている					
R	・図表グラフ資料がとても工夫されていて、わかりやすく、学習内容の理解を助けるよう工夫されている。 ・各ページの資料が大きく、本文の量が少ない。生徒の負担感は少なく構成されてある。知識量ではなく、基本的な学習内容を理解することに重点を置いている。	・小单元ごとに章の課題、「入り口」、節の課題、章の最後には学びを深める「これから」で構成されており、問題解決型の学習を実現する構成になっている。 ・「学習を深めよう」では、今日的な課題について取り上げてあり、グラフや写真が効果的に活用されている。	・「入り口」では、視覚教材やデータなどが効果的に取り入れられており、生徒が学習への興味・関心をもちやすい。 ・「学習を深めよう」のコラムで、国や地域の抱える課題や人権問題に生徒が興味・関心をもてるよう丁寧に扱っている。	・日本の領土をめぐる問題で竹島、北方領土についての特集ページが設定されており、領土問題について、生徒が深く考えられるような構成になっている。	・「やってみよう」では、裁判員制度など解決の難しい課題が設定されており、発展的な学習ができるような教材が用意されている。 ・「よりよい社会をめざして」の単元で課題探求レポート作成の手順を丁寧に示し、発展的な学習が取り組みやすいようにしている。	・図表グラフ資料がとても工夫されていて、わかりやすい。 ・知識量ではなく、基本的な学習内容を理解することに重点を置いている。 ・課題探求レポート作成の手順を丁寧に示し、発展的な学習が取り組みやすいようにしている。 ・領土の問題・拉致問題・人権問題を丁寧に扱っている。
	領土の問題・拉致問題・人権問題を大きく取り上げている。					

選 定 に 必 要 な 資 料

地 図 No. 1

記 号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
A	・各単元の課題にせまるための問い（ビーズアイ）や資料を活用する問題が掲載されており、順序だてて課題に迫れる。（p. 16、24、40など） ・ビーズアイの問いが本時の振り返りや復習できるものもあれば、グループで追及できる課題もあり、多様な学習を展開できる。知識、技能と思考・判断両面の育成が図られる。（p. 14、17） 「植物の景観の変化」など、細かな情報まで記載されており、幅広い知識の定着に有効である。（P12）	・教科書で履修する順番に合わせて項目が構成されている（アジア→ヨーロッパ→アフリカ…） ・「ジャンプ」項目と照らし合わせて資料を比較したり、多様な視点からその資料の事象に迫れる工夫がされている。	・豊富なデータがあり、変化を読み取りやすい資料も掲載されている。イラストと写真が並べて掲載されており、イメージしやすい（p. 136、141）。 ・デジタル地球儀やデジタルマップ、気候景観の活用で、位置や地形などを空間的に詳しくとらえることができ、イメージしやすい。	・「日本の周辺」では最端の島だけでなく、領土問題に関する記述や写真も掲載されている。竹島の位置や情報を写真とともに詳しく紹介してあるため、領土問題への意識を高める工夫がされている。（p. 171、172） ・地域的特色や他地域との違いを読み取らせる資料がのっているため、単元の学習課題に迫りやすい。	・QRコンテンツは生徒が自身のタブレットを活用して自分で知りたい情報を収集でき、単元のまとめや調べ学習ができる。 ・QRコンテンツは本時の振り返りや復習を行える問題もあり、家庭でも簡単に自学に取り組むことができる。 ・QRコンテンツが地図に親しみ、生活の中で地図を活用する場面や意義を考えさせることができるため、学習意欲を高める。	・知識技能の定着に向けて、多種多様な資料やデータが豊富。 ・QRコードによる生徒の理解を手助けするコンテンツが豊富にあり、家庭学習や授業の振り返りをしやすい。 ・各単元の課題に資料を活用して迫れるようなテーマが設定されており、課題解決学習にむけた様々な学習形態に対応できる。（個別⇔協調）
J	・地図帳の使い方が最初に丁寧に詳しく説明されている。小学校での既習事項を確認する項目もあり、スムーズに中学校の学習へ進める。 ・土地利用や地図記号などが各ページに記載されており、使いやすい。 ・日本の対蹠点や日本の同緯度の位置を示すなど、思考力を高め、位置関係を理解しやすい。 ・もくじにSDGsや歴史公民の分野で活用できるページが記載されており、見通しをもって他分野と関連付けた授業ができる。	・教科書をみなくても地図帳で教科書の内容や追究課題が網羅できる（p. 157～158） ・統計資料の数字や地名が色分けしてあり、共通点や類似点を見つけやすい。 ・日本、世界の「農林水産物」、「鉱山資源・工業製品」などのグラフがわけて示されており、生徒が見やすい工夫がされている。（p. 180～182） ・歴史的な視点からも各地域の特色を見られるように、その地域の歴史に関する資料や地図中にも歴史的イベントが起きた場所、船の航路などが掲載されている。（p. 89、93）	・文字、色のバランスや背景などが見やすい。土地の起伏や高低が微妙に違う色分けで表現されている。（色見が薄い） ・平面の地図だけではイメージしにくい、鳥瞰図と並べて記載されていることで、立体的に地形や位置を視覚的に読み取りやすい。（p. 29～30、p. 47、p. 65～66） ・「地図で発見」にチェック項目があり、学習内容も確認とともに、生徒が達成感を持つことができる。	・SDGsとのつながりを感じながら資料の読み取りや考察を行うことができる。（p. 8～14、159～162） ・「地図で発見」は比較的読み取りやすいものや、自分の生活に根差した問いが多いので、授業の導入に利用しやすく、主体的な学習を促す（宿題にして導入で聞くとよい）。 ・個人でも取り組めるものとグループで調べ学習できる課題とがあり、授業後半の発展的な学習にも応用できる。	・資料を使って追究できる課題が設定されており、現状や原因、取り組みなどが紹介されているため、調べ学習や協調学習などに取り組みやすい。（p. 9～10） ・台風や発生する仕組みや地震のメカニズムがイラストで示されているためイメージしやすく、他教科の既習事項を振り返りながら関連付けて学習を進めることができる。 ・写真やイラストを使って、日本の各地域で起こりうる（起きた）災害の被害やその対策を詳しく紹介しており、防災学習の充実が図れる。 ・QRコンテンツ中の「NHK for school」とリンクした動画を使用して、振り返りやまとめに取り組みませることができる。	・内容も精選されており、デザインや色彩などにおいても視覚的にみやすい。 ・統計の数値が正確であり、より正確なデータの収集ができる。 ・テーマごとにページが設定されており、公民や歴史分野でも活用しやすい。地図帳単体として使うわけではなく、他分野でも活用が期待できる。→思考力などがはぐくみやすい。

選 定 に 必 要 な 資 料

数 学 No. 1

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	(感性をはぐくむ要素を含む)
A	○「大切にしたい数学の学び方」や「この本の構成と使い方」では、生徒が見通しをもち、主体的に学習できるように教科書の使い方が丁寧に記載されている。(1年巻頭-10) ○章末の問題はA、Bの2段階で構成されている。また、本文の練習問題等は生徒の主体性に合わせ問題量を追加し、個別最適な学びにも対応できるよう配慮されている。 (2年p. 52～56)	○章や節の最初に、これからの学習と関連した日常の課題が示され、解決の見通しをもたせ、章や節の学習につながるように配慮されている。 (3年p. 69、85) ○学習内容の系統性を重視し、スパイラルな学習や、円滑な指導が行えるよう内容の配列が工夫されている。 (1年p. 11～18)	○「数学のまど」「数学×仕事」では、身の回りの具体物の写真を使い、数学と日常生活が関連付けられ、生徒の興味・関心が高まるように工夫されている。 (2年p. 89～91) ○「深い学び」では、活用問題が設けられ、問題解決の過程に沿って、生徒が自ら考え、対話を通して考えを深める授業が展開できるように配慮されている。 (3年p. 149)	○仕事の中で数学を活用している人を紹介し、生徒も数学を用いた日常の問題解決を体験できるように工夫されている。 (3年p. 122～123) ○「活用の問題」「数学の自由研究」などでは、身の回りの題材を取り上げ、数学の必要性や有用性が実感できるような工夫がされている。 (2年p. 56、94、233) ○QRコードを読み取ると、47都道府県ごとの紙面とデジタルマップを利用して、自分の住んでいる地域の題材を使った授業ができる。 (1年p. 192)	○巻末に、各章の学習で働かせた数学的な見方・考え方を振り返るコーナーを設定し、既習事項を確認できるように工夫されている。 (2年p. 194～201) ○「もっと数学をつなげよう」には、「学びのベース/学びのマップ」「振り返り/補充の問題」が設けられ、生徒一人ひとりに合わせた学習が展開できるように配慮されている。 (1年p. 249～307)	○マークや色分けによって内容や難易度をとらえることができ、キャラクターからのアドバイスで、生徒が問題解決の見通しをもつことができるように配慮されている。 (3年p. 8～10) ○学習のめあてや解決までの過程が具体的に示されており、生徒が目的意識や見通しをもって学習できるように配慮されている。 (1年p. 12～13)
	○授業を想定したQRコンテンツが多数掲載（1752種類）されており、「授業」や「自学自習」に活用できる。					
B	○問の横にプラス・ワンがある設問があり、習熟度に応じた問題演習ができる。	○学習項目のところにめあてが提示してあり、何をゴールにして学ぶのかがわかりやすく示されている。	○MATHFULというコラムで数学的な話題が多く取り上げられており、学習への興味・関心の向上につながる。 ○他教科との関連を意識した例題や問題が多く取り上げられている。	○たしかめようのページでは、学習したページが横に書いてあり、どこで学んだのかが確認しやすいようになっている。	○下学年のまとめや振り返りに多くのページが割かれており、復習しやすい。	○巻頭に数学の学習の流れが示されており、各章ではそれに沿った課題が設定してあり、問題解決の力を高めることができる。
	○QRコードを読み込むことでデジタルコンテンツを閲覧できる。紙面よりも詳しい内容になっている。					

選 定 に 必 要 な 資 料

数 学 No. 2

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
E	○およそ1単位時間の最初において「Q」が設定されている。その時間の中心となる学習課題とその解決へ向かうための指示が示されており、生徒が見通しをもって取り組めるような工夫がされている。	○各単元のはじめには、単元を貫く問いが平易な言葉で示されており、生徒がその問いを解決するために学んでいけるような構成になっている。 ○各小単元の最後には、次の小単元に繋がる「次の課題へ！」が示されており、学びが連続する工夫がされている。	○各章末にある「活用」「深めよう」では、SDGsや防災など、現代的な諸課題の中にある数学を取り上げており、生徒の興味・関心への工夫がされている。	○それぞれの「Q」（学習課題）には「見方・考え方」として、課題を解決するために働かせる数学的な見方・考え方が示されている。 ○島根県に関連する写真が掲載されており、実物をイメージしやすくなっている。(例：1年p. 204 空間図形:仁摩サンドミュージウム)	○巻末には「さらなる数学へ」があり、学習した内容に関連する身近な疑問や数学の歴史等について取り上げ、発展的な学習が行える工夫がされている。	○全体的に、問いを見つけること、そしてその問いを連続させることに重点を置いた構成になっている。（「節のとびら」で疑問発見→疑問を数学化した「Q」→「次の課題へ！」で新たな疑問を発見）
	○多種多様なQRコンテンツが掲載されている。作図の仕方などを見ることができる「アニメーション」や自分で操作できる「活動」、間違いやすい問題の注意点を示した「パトロール隊」、教科書に示した解答とは異なる「別の解き方」など、コンテンツを活用しながら学習が進められるような工夫がされている。					
G	○「学びのマップ」が用意されており、前学年までにどの内容をいつ学習したのかがわかるようになっている。 ○小中、中高のつながりを意識した内容が多い。	○巻頭に学習の流れが示されていて、見通しをもって学習に取り組むやすい。 ○章の最初には既習事項の確認が、最後には学習事項の確認が穴埋め形式で用意されていて、復習がしやすい。	○各章の扉絵には内容に関連する写真が使われていて、興味をもちやすい。	○数学的な見方・考え方が具体例とともに載っていて、何を意識すればよいかがわかりやすい。 ○数学しごと人として数学を活用している人のインタビューがあり、数学を学ぶことの有用性に気づかせている。	○高等学校で学ぶような発展的な内容が多く掲載されており、個人の興味によって学習できる。 ○章末問題には◎○△が書いてあり、各自の理解度がわかるようになっている。	○章内や章末の「数学の広場」では、学習内容を広げたり、深めたりするコラム等を掲載し、生徒が数学の有用性や実社会とのつながりを意識できるよう工夫されている。
	○複雑な設定の設問や図形、グラフなどにはQRコード（全288種類）がついており、デジタルコンテンツを確認することができるようになっている。					

選 定 に 必 要 な 資 料

数 学 No. 3

記 号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	(感性をはぐくむ要素を含む)
L	○問いの横に補充問題の表示があり、更に各ページ下のQRコードを読み取れば問題が表示されるので、生徒の様々な学習状況に対応する工夫がなされている。	○問題以外に「話し合おう」「説明しよう」「まとめよう」など、数学における言語活動が充実するような工夫がある。	○「数学ライブラリー」などで、学習内容と関連のある身近な題材を取り上げている。(例:1年p. 68「小型犬の年齢と人間の年齢」、2年p. 74「AEDの重要性がわかるグラフ」)	○「逆向きに考える」「条件をかえる」など、数学的な見方・考え方を働かせる指標が示されている。 ○島根県に関連する写真が掲載されており、実物をイメージしやすくなっている。(例:1年p. 182 空間図形:仁摩サンドミュージアム)	○巻末には、各単元の学びを数学の世界や身の回りで活用する課題を掲載した「学びをいかそう」があり、SDGsや消費者教育等の今日的な学習、教科横断的な学習を進めるための工夫がある。 ○巻末「数学広場」には、下学年の内容の復習から発展的な内容まで、幅広い問題が掲載されている。	○章末問題は、基礎・基本を中心とした「学びを確かめよう」と、発展的な内容を含んだ「学びを身につけよう」に分かれ、それぞれ2ページに渡って豊富に問題が掲載されている。それにより、生徒がそれぞれの習熟度に応じて取り組み、単元で学習した内容を深められるよう工夫されている。
	○QRコンテンツが1,384種類と充実している。図形や立体を動かしながら成り立つ性質を予想する等のシミュレーションコンテンツ、作図の方法や問題の解説等の動画コンテンツ、学習事項に関連したプログラミングコンテンツなどがある。					
N	○学習の進め方やノートの作り方が丁寧に書いてあり、学習を始めるにあたり指導しやすい。 ○章の最初に既習事項の確認のページがあり、関連性が強い事項を確認できるようになっている。	○考える場面では、先生と生徒の会話や生徒同士の会話を吹き出しとして表すことで、より思考の流れがわかりやすくなっている。 ○各章末には活用の問題があり、身近なものへの応用する場面が設定されている。	○各章の最初では、日常の活用場面から考える構成となっており、これからの学習する内容への興味・関心を高められるようになっている。	○仁摩サンドミュージアムの写真が使われている。(1年p. 190) ○後見返しに学びの自己評価ができるページがあり、授業などでつけたい力を確認しやすい。	○巻末のまとめが下学年のまとめと比較できるようになっており、復習するとき使いやすい。	○巻末の数学旅行では、数学を仕事で活用している人のインタビューや、数学にまつわるトピックも多く、コラムが充実している。
	○QRコンテンツが502種類と多数あり、自分で図形を操作できたり、実験を動画で見たりできるなど、理解を深めることができる。					

選 定 に 必 要 な 資 料

数 学 No. 4

記 号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
○	○見開き2ページを1つの小節とすることを基本とし、学習課題、めあてを示し、生徒が見通しをもって学習できるように配慮されている。(2年p. 42～43)	○各章の直前に「次の章を学ぶ前に」という復習問題のページが設けてあり、既習事項の確認と次の学習への準備ができる構成となっている。(1年p. 57)	○各章のはじめには、実生活の場面を表す写真やイラストとそれに関連したシンプルな疑問が吹き出しで掲載され、これからはじまる学習への興味・関心を高めることができるように工夫されている。(3年p. 12～13)	○まちがしやすい問題では、「まちがいの例」を提示し、どこがまちがっているかを説明することで、学びに向かう力を育てるような工夫がされている。(1年p. 79)	○巻末に「補充問題」「総合問題」「活用の問題」「ステップアップ」が設けられており、生徒一人ひとりの学習状況に応じて取り組むことができるように配慮されている。(3年p. 234～261)	○切り離してノートに貼ることもできる「ふり返しシート」「対話シート」が巻末に用意されており、協働的な学びを通して、考えを深めることができるように工夫されている。(2年p. 245～259)
	○「問」や節末の「基本問題」は、「例」と同程度の問題となっており、基礎的・基本的な内容が確実に定着するように配慮されている。(3年p. 23～24)	○「学び合おう」では、日常生活や社会の事象から問題を見だし、解決する過程を丁寧に示しており、主体的・対話的で深い学びとなるように工夫されている。(2年p. 111～113)	○「数学のたんけん」では、既習事項に関連した話題などを掲載し、知識を補充しながら、興味・関心を高めることができるように工夫されている。(1年p. 29)	○「身近なことがら」、巻末の「数学マイトライ」では、実生活、他教科、歴史、SDGs等に関連する数学の内容を取り上げ、生徒が数学の有用性やおもしろさを感じることができるように工夫されている(2年p. 201～215)	○「数学研究室」は、生徒が興味をもって課題学習や調べ学習に取り組むことができるように工夫されている。(1年p. 252～259)	
	○学びを支えるQRコンテンツが掲載（391種類）されており、「授業」や「家庭学習」に活用できる。					

選 定 に 必 要 な 資 料

理 科 No. 1

記 号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
A	・学びのフローチャートを確認することにより全体の中で、今どの活動を行っているか確認できるようになっている。 ・実験観察器具の基本操作がそれぞれまとめであり、実験に必要な技能の確認ができる。 ・必要な場面で、実験、観察結果をまとめる方法（レポート、グラフなど）も示されている。 ・実験、観察を安全に実施するための注意点などがわかりやすい。 ・実験では実験手順のQRコードがあり、注意点など動画でみることができ、視覚的にもわかりやすく、実験操作に説明時間を割きすぎず、実験の考察時間を確保できる。 ・実際は実験しない酸化銀の資料動画もあり、生徒の理解が進む内容となっている。 ・「じっくり探究」が設けてあり、探究のしかたを意識して学習ができる。	・実験・観察が1ページ、または見開き1ページにまとめてあり、見通しをもって実験・観察に取り組むことができる。 ・各学習内容で、「これまでに学んだこと」が示されており、既習事項との関連がわかりやすい。 ・章のはじめには、章を貫く問いBefore&Afterがあり、生徒が学習で学んだことを実感できる構成になっている。 ・各節の導入部の「レッツスタート！」で問題発見をし、実験や観察を経て振り返り、活用という配列に学習の流れが構成されており、生徒の主体性を高め、見通しをもって学習に取り組むようになっている。	・以前に比べ、イラストや写真が大きく、レイアウトが大変工夫されている。 ・各単元「この単元で学ぶこと」で身近な環境を図で示してあり、学習内容の見通しがつながりも意識しやすい。 ・QRコンテンツが豊富である。 1年163ヶ所（252個） 2年200ヶ所（255個） 3年198ヶ所（243個） ・ペーパークラフトを制作することで楽しく学ぶことができる。（巻末）	・ジオパークへ行こうで、知夫赤壁や、れき岩が見られるところで浜田市、たたら製鉄で雲南市が紹介されており、興味関心がもてるように工夫されている。 ・理科の見方、考え方を具体的に示してあり、学びが深まりやすい。 ・学習事項が日常生活同関連しているのか、利用されているのか【まちなか科学】として紹介してある。 ・学年ごとに特色がある。1年は問題を見出す力、2年は解決する方法を立案する力、3年は科学的に判断する力。3年間で資質能力の育成をしている構成になっている。	・学習内容の整理と記載ページがまとめてあり、家庭学習での自主学習や復習に役立つ。 ・「学びを生活や社会に広げよう」では、学習した内容と身の回りの事象と結びつけて考えることができる。 ・章内の例題・練習から章末の活用問題までステップアップしながら学力向上をめざしている。 ・物質どうしの質量の割合のところでは、数学で学んだ比例式の利用など他教科の既習事項の関連が図られている。	・学びのフローチャートを確認することにより全体の中で、今どの活動を行っているか確認できるようになっている。 ・章内の例題・練習から章末の活用問題までステップアップしながら学力向上をめざしている。 ・「じっくり探究」が設けてあり、探究のしかたを意識して学習ができる。 ・以前に比べ、イラストや写真が大きく、レイアウトが大変工夫されている。
	教科書の判型が変更されたが、教科書自体は以前のものより軽量化されている。 実験・観察で利用していた器具、教材がほとんど変更されていないため、新規に購入する必要がほとんどない。（1年）					

選 定 に 必 要 な 資 料

理科 No. 2

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
B	・実験結果が、補助線や写真を効果的に使っているため、理解しやすい内容になっている。(3年p. 18、22) ・色づかいが、色覚の多様性に配慮されている。 ・実験、観察器具の基本操作がそれぞれまとめてあり、実験に必要な技能の確認ができる。 ・挿絵の生徒の対話形式がヒントになり、探究しやすい、考えやすい内容である。	・各章の始めに「これまでに学習したこと」「これから学習すること」があり、学習をスタートさせやすくなり、また見通せるものになっている。 ・単元末に「読解力」問題が設定されており、思考力を高め言語活動の充実が図れる内容になっている。 ・探究の過程に沿った学習が充実している。学年ごとに重視したい探究の項目が分かれており、3年間で力がつけられるような工夫がある。	・「生物の移り変わり」の図が見開き1ページにまとめてあり、興味関心をもたせる工夫になっている。 ・つながる×sciencepressでは、単元と、現代の科学や歴史とのつながりがわかり、興味をもたせる工夫をしている。 ・指標生物が実物大のものが多く、生物がイメージしやすくなっている。 ・写真やカラーの図が多く、学習している内容等が視覚で捉えやすい。 ・2年のコイルのつくる磁界では鉄粉をまいた後の磁界の模様をつくるコツ(たたき方)もあり、生徒はやってみたいという意欲につながると思う。 ・国による電圧や周波数の違いが(2年p. 209)にあり国際理解につながる。	・結果の例を活用することで、データ処理がスムーズに行える。 ・「発展」の内容は、日常生活や世界とのつながりが話題になっており、関心が広がるものになっている。 ・日御碕(出雲市)の流紋岩の地形、世界ジオパークで隠岐が掲載(1年) ・大地の変化の・自然観察スポット集があり、生物・大地の変化の学習では都道府県名から検索できるようになっている。	・3年間の学習のまとめを示しているので、学習を継続的に進めていくことができる。 ・「くらしの中の理科」では、学習内容と生活とのつながりを考えることができる。 ・WEBテストのコンテンツがあり、家庭学習などに利用でき、取り組みやすい。 ・WEBコンテンツ3年間で102個	・各章の始めに「これまでに学習したこと」「これから学習すること」があり、学習をスタートさせやすくなり、また見通せるものになっている。 ・単元末に「読解力」問題が設定されており、思考力を高め言語活動の充実が図れる内容になっている。

選 定 に 必 要 な 資 料

理 科 No. 3

記 号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
E	・探究の内容では、実験方法から考察までが見開き1ページになっており、写真を見ながら実験が行えるように工夫されている。 ・すべての教科書紙面がWEB ページにあり、ミライ教科書という。ルビ付きや多言語にも対応しユニバーサルデザインが意識されている。 ・探究的な学習が進むよう「理路整然」にまとめられているので、生徒もどのように考えたらよいか、取り組みやすい。 ・実験観察器具の基本操作が、教科書終わりの補充資料にまとめてあり、各操作をまとめて確認しやすい。	・「振り返ろう・つなげよう」で、既習内容が一覧表になっていたり、単元の目標がチェックリストになっていたりするので、見通しをもって学習に取り組める工夫がなされている。 ・実験や観察については、手順が写真で説明があり、教員も説明しやすく、生徒にも分かりやすい。写真も大きく見やすい。 ・探究の進め方（気づき→課題設定→仮説→・・・）が、それぞれの学習内容において、わかりやすく表示してある。	・各学年巻末に補充資料が載っており、実験器具の説明や、資料、発展的内容が載っており主体的な学習できる工夫がされている。 ・なぜ、理科を学ぶのかというシンプルな問いにイラストで分かりやすく説明があり、根拠を示して、判断することの物事の本質を示している。 ・探究の気づきでは、身近な事象の画像を示してあるので、関心をもちやすい。	・外来種の記述で、世界→日本、日本→世界の記述があり、今日的な課題を追求する学習につながる工夫がなされている。 ・単元のはじめに「Can-Do-List」があり、「どのように学びに向かうか」「どのような知識や技能をみにつけるか」「理解していることをどのように使うのか」を確認してから学習に取り組める。 ・「この時間の見方・考え方」の例がページ下部に示されていて、各時間の課題に対して、どのように「見方・考え方」をはたらかせていくのかヒントになる。 ・川で堆積した土砂として出雲市が掲載されている。(1年)	・気づき・仮説・計画など、いくつかの例が提示してあるため、自ら課題を見つけ、学習を継続して進めていくための工夫がなされている。 ・ミライ教科書ではチャットの機能があり、家庭学習の手助けとなる。 ・各ページのQRコードから、教科書本文に沿ったNHK for schoolがリンクしてあり、家庭学習がしやすい。 ・教科書終わりの補充資料で、学習した内容に関する「全国学力学習状況調査」「高校入試」の問題にも挑戦できる。	・なぜ、理科を学ぶのかというシンプルな問いにイラストで分かりやすく説明があり、根拠を示して、判断することの物事の本質を示している。 ・各単元において「Can-Do List」で、身につけた資質・能力が大まかにまとめてあるので、導入時や単元のふり返りで活用できる。

選 定 に 必 要 な 資 料

理 科 No. 4

記 号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
G	・各学年の巻末に、基礎技能や理科で使う算数・数学の内容が掲載されているため、実験や考察が円滑に行える工夫がなされている。 ・字の間が大きくとられていて、読みやすい。 ・重要語句が赤字（オレンジ色）で示されている。 ・実験、観察を安全に実施するための注意点や、基本操作などがまとめられている。 ・探究の進め方が疑問・課題・仮説・計画・実験・考察・結論に沿って分かりやすい工夫がある。	・「探究の進め方」が折り込みになっており、いつでも確認できるため、今どの学習段階にいるか確認できる。 ・実験観察の結果を教科書に記述することができる。 ・教員が必要に応じて利用できるまなびリンク＋があり、生徒の実態に応じた最適なコンテンツを提示できる。	・大きく鮮明な写真が使用されており、視覚に訴える工夫がなされている。 ・各章のはじめに「これまでの学習」が記されていて、既習事項等のつながりが意識しやすい。 ・ハローサイエンスで科学の話題を紹介しており、興味・関心を持たせる工夫がある。 ・まなびリンクのコンテンツが豊富である。 1年120点 2年108点 3年120点	・日本で起こりうる災害が見開き1ページにイラストで説明してあるため、自分たちのまわりで起こりうる災害について主体的に学習に取り組むことができる。 ・「ハローサイエンス」で、科学の歴史や話題が紹介されていて、学習内容とのつながりがわかりやすい。 ・p. 54ハローサイエンスにたら製鉄のことが載っている（島根県の記載はない）	・単元末に「基礎問題」、巻末に「学年末総合問題」が掲載されており、家庭学習に生かされる内容になっている。 ・解説付きの「例題・練習」から章末の活用問題までステップアップしながら学力向上をめざしている。（まなびリンク） ・章末・単元末に基本問題・活用問題など5段階の問題があり、学力定着の工夫がされている。	・「ハローサイエンス」で、科学の歴史や話題が紹介されていて、学習内容とのつながりがわかりやすい。

選 定 に 必 要 な 資 料

理 科 No. 5

記 号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
L	・1年生p. 126～133までのサイエンス資料2は、今後活用する実験器具の使い方や注意事項がまとめてあり活用しやすい内容になっている。 ・不思議からはじまる単元導入と章導入で理科への興味を持たせる工夫がある。	・Action―活用してみようの項目は、学んだことをまとめる内容になっており、言語活動の充実を図る工夫がなされている。 ・各単元に1つ探究しやすい題材を選んで「探Q実験」があり、生徒が主体的に探究できるようになっている。 ・「探Q実験」には発表スライドのひな形QRコードから読みとれ、パワーポイントで作成し、まとめができるようになっている。	・1年p. 66の大地の変化の写真は、前後の写真があり大変わかりやすくなっている。 ・p. 99の写真は地層のはぎ取り調査の写真があり、生徒の興味関心をひくものとなっている。 ・各章のはじめページの「つながる学び」でこれまでの学習を確認できるのでスムーズに学習に取り組める。 ・単元の導入ページでは、「学ぶ前にトライ」が設けられてあり、学習に関連した身のまわりの疑問について考えることからはじめられており、興味をもって学習に入ることができる。 ・探究の力を活用する「みんなで探Qクラブ」があり、深い学びにつなげている。自由研究にも使えそうである。 ・QRコンテンツが豊富である。 1年19ヶ所 2年18ヶ所 3年203ヶ所	・各学年の巻末にSDGsと地域と地域の取組が結びつけられており、学習が深まるように工夫されている。 ・各単元を数字で表すのではなく、「生命」「地球」「物質」「エネルギー」で分けている。 ・化学分野を学習する前のところで、実験器具等のあつかいや注意すべき点を明確にしている。 ・巻末の探Qシートは、探究の過程もわかりやすく、レポートづくりに必要な内容も理解しやすい。 ・「深めるラボ」で石州瓦、日本瓦の原料採掘場(島根県大田市)の写真掲載(1年 p. 72) ・流紋岩(島根県日御碕)掲載(1年p. 94)。風化した花こう岩の露头(1年p. 100) ・日常生活や社会に関連したコラムが節末にあり、理科の有用性が伝わる工夫がある。(お仕事ラボ・部活ラボなど)	・お仕事ラボやお料理ラボは、キャリア教育や他教科への関連が適切に図られている。 ・ICT機器活用で、基礎・基本から応用的な問題までサポートしている。 ・節ごとに「Action活用してみよう」配置されており、学んだことで得た知識・技能を活用できるようになっている。また、生徒が考えやすいような写真やイラスト、QRコードなどがあり、思考の手がかりがある。	・巻末の探Qシートは、探究の過程もわかりやすく、レポートづくりに必要な内容も理解しやすい。 ・Action―活用してみようの項目は、学んだことをまとめる内容になっており、言語活動の充実を図る工夫がなされている。

選 定 に 必 要 な 資 料

音楽（一般） No. 1

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
G	○写真や図が大きく、解説が詳しい。また、資料としての掘り下げが充実している。(2・3年下p.10ほか) ○日本の伝統音楽に関する「用語」の説明に紙面を多く割き、さらに図による説明を加えることで、理解の定着を図っている。(2・3年上p.50)	○「サウンド・オブ・ミュージック」から代表的な楽曲の楽譜を並記する形で記載することで、それぞれの特徴や曲想の違いについて理解がしやすく、次ページの「Active-比べてみよう-」を通じて主体的・対話的で深い学びへスムーズに繋げることができる。(1年p.14～16) ○アイコン「比べてみよう」は関連した題材の比較に効果的で、学びを深める一助となる。また、選曲も工夫されている。(2・3年下p.34、37ほか)	○「歌うための準備」では、簡単にできるブレストレーニングやストレッチがイラストを交えて紹介しており、実践しやすい。(1年p.12～13、2年上p.15) ○最終ページが折り畳みの見開きになっており、取り上げられている内容について、体系的にまとめられている。(各学年)	○「CMソングをつくろう」では、創作活動に地域の名物や名所を紹介する内容を盛り込み、自分の住む町に対する愛着を深める活動にも繋がっている。(2・3年下p.32～33) ○国歌「君が代」では、イベント等で国歌を歌う様子や、国内各地にある細石の写真が学年ごとに違ったものになっており、より関心を深めることができる。また、2・3年上では熊野大社(松江市)にある細石の写真が使われており、より身近に感じることができる。(2・3年上p.87)	○「Let's Try!」では、日本の伝統音楽などを楽しく、疑似的に体験できるよう工夫されている。(1年p.57ほか) ○発展的学習や家庭学習に役立つQRコードが多く掲載されている。	○ジャンルや時代を問わず、多くの名曲が教材として取り上げられている。 ○歌い方の基本について、豊富なイラストや実践例を用いて体系的に学べるよう整理されており、発声のメソッドとして十分に活用することができる。 ○「学習MAP」と「学習の進め方」が分かりやすく整理されており、学習の見通しを持たせやすく、また、振り返りにも有効である。
	○現行の教科書では2・3年下に掲載されている「ルールを守って音楽を楽しもう!」が、1年の教科書にも掲載されるようになり、著作権への理解をより早い段階から深めることができる。(1年p.66～67) ○話し合い活動を通じて学びを深めていく場が多く設けられている。(1年p.26～27ほか)	○創作領域では、紙媒体とデジタル教科書との親和性を高めることで、制作の過程を目と耳で理解する補助的な役割を果たしている。(1年p.20～21) ○「リズムゲーム」「リズムアンサンブル」「リズムチャレンジ」では、楽しみながら楽譜の理解に繋げるための工夫がされていることに加え、創作活動への導入をスムーズにしている。(1年p.16～17)	○歌唱共通教材では、登場する写真やレイアウトが美しく、内容の理解を深めたり、情景のイメージを膨らませたりするために役立っている。(2・3年上p.18～19ほか) ○学習に関連して、著名な演奏家だけでなく、音楽に関係した芸能人、アニメーションなど、現在の流行が積極的に取り上げられており、興味・関心の喚起に繋げることができる。(1年p.2～3ほか)	○これまでの教科書でも、音楽教育とSDGsとのかかわりについて触れていたが、今回の改訂では「楽器とSDGs」についても触れられており、より深く学ぶことができるようになった。(2・3年下p.66～67) ○各学年で安来節(1年p.62)、石見神楽(2・3年上p.69)、出雲神楽(2・3年下 裏表紙)といった島根県の伝統芸能が取りあげられており、地域への誇りを持つことに繋がられている。	○QRコード(学習に役立つコンテンツがウェブサイトにある)。発展的学習や家庭学習ができる。 ○教科書に掲載されている書き込みを前提としたページはすべてPDF化されており、活用が容易である。	○イラストは男女のバランスや外国人の登場など、多様性への配慮がなされている。(1年p.17ほか) ○ページの構成、色の使い方、アイコンなどのバランスが整っており、見やすい。 ○学習指導要領に沿った構成となっており、学習指導計画を立てる際や評価基準を考える際、参考にすることができる。(各学年p.8、9)

選 定 に 必 要 な 資 料

音楽（器楽合奏） No. 1

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
G	○楽器の魅力がよく伝わるような美しい写真が、体系的に配置されており、器楽の教科書で学ぶ全体像が掴みやすい。(p. 2、3) ○リコーダーでは、タンギングの図や奏法のアドバイスが丁寧で、表現の工夫につながりやすく、ギターでは、ストローク奏法の比較がしやすくなるように工夫されている。(p. 10、36)	○同じ音が続くタンギングの練習になる「しりとり歌」など、ねらいに沿った曲が用いられている(p. 11ほか)。 ○学習する楽器が、管楽器、弦楽器、打楽器といったカテゴリーごとに掲載されており、民族楽器との比較もしやすい(p. 31ほか)	○アーティキュレーションの奏法の示し方が、イメージしやすい。(p. 20) ○写真が大きく見やすいため、技術面のポイントが分かりやすい。(p. 23ほか)	○課題に応じた選曲が適切であり、低音、サミング、タンギングなどを身に付けるとともに、古今東西の名曲にも触れることができる。 ○教材曲の題名の下に、それぞれの曲で身に付けたい事柄が短い1文で表記されており、課題を意識しやすい。	○発展的学習や家庭学習に役立つQRコードが多く掲載されており、プロの演奏を聴くことができる。(p. 12ほか) ○「深めてみよう」の内容が発展的で楽典の要素が強く、より専門的な内容を学ぶことができる。(p. 21ほか)	○楽器が活かされた選曲で、本物に触れる機会が設定されている。 ○基礎的・基本的な内容から難易度の高い発展的なものまで幅広く教材が用意されており、生徒の実態に応じた学習内容を選ぶことができる。
H	○リコーダー二重奏の副旋律が音楽的で、主旋律とのアンサンブルをより楽しむことができる。(p. 24ほか) ○基本的な奏法のレイアウトが工夫されている。特に、箏の奏法において、親指を左側、中指・人さし指を右側にしている配置が効率的で、見やすい。(p. 37)	○リコーダーの学習が、「LESSON」として段階的な構成となっており、より着実に奏法を身に付けることができる。(p. 14～24) ○小物打楽器について、練習用の楽譜や奏法のコツなどの詳しい説明が掲載されている。(p. 63～67)	○リコーダーの運指のイラストがシンプルかつ本物に近づけられており、分かりやすい。 ○ギターの種類の比較や、箏のいろいろな奏法が一つのページにまとめられており、過不足ない説明となっている。(p. 27、41)	○日本の伝統音楽で用いられる楽器が、一つのページにまとめられており、地域の芸能に結びつけやすい。(p. 59) ○教材曲の題名の横に、生徒に問いかける形で学習ポイントが表記されており、演奏上の課題を自ら考えて取り組む機会に繋げることができる。(p. 14ほか)	○QRコードが各ページに掲示されており、家庭学習などで活用できる。 ○創作へのつながりがスムーズで、発展的な学習ができる。(p. 43)	○曲の難易度が易しく、ステップで学習できる。 ○学習指導要領に沿った構成となっており、学習指導計画を立てる際や評価基準を考える際、参考にすることができる。(p. 8、9)

選 定 に 必 要 な 資 料

美 術 No. 1

記 号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
D	○ページ数が1年は他社と同じであるが、2・3年は127ページと分量が多い。そのため余白が多く見やすい印象で書き込みもしやすい構成になっている。 ○光が反射しない紙質で、色合いが目に優しいことと、ページのレイアウトが落ち着いた印象になっていることから見やすくする工夫がされている。	○風神雷神図を入り口に若冲を紹介しており、原寸大の部分図で全体と部分の鑑賞を相互に可能にしている。(1年p. 26～31)その他の作品でも作品の全体像と部分の拡大(原寸大)のページ構成が分かりやすい。(2・3年p. 26～31) ○水墨表現を4ページにわたって扱っており、技法にも触れていることから表現につながる紹介がされている。(2・3年p. 22～25) ○1年の初めに「スケッチブックから広がる」として、観察から発想へのアプローチを紹介している。(1年p. 10～13)	○「作者のことば」やアイデアスケッチなどが掲載されており、生徒の興味・関心をひき表現につながる発想が得やすくなっている。(1年p. 10) ○3人のキャラクターが設定されており、紙面とQR動画で案内役をしていることで興味・関心をひき考え方の視点を与えている。(1年p. 2～5)	○世界遺産について扱った内容があり石見銀山とつなげて学習することができる。(2・3年p. 116～117) ○生徒が実際に制作している姿の写真が多く使われており、活動のイメージや見通しを持ちやすい工夫がされている。(1年p. 11) ○「美術の用語」として、美術の専門用語を中学生に分かりやすく短い文で紹介・解説している。(1年p. 41)	○ページ上部に本のマークがあり、指定されたページを参照することで「学びの資料」と関連付けて発展的に学ぶことができるようになっている。(1年p. 10) ○思考ツールなどを紹介し、自分の内面を掘り下げるものや使う人のことを考えること、社会に役立つと思うものなど、生徒の発想を広げる手立てを紹介している。(1年p. 43、49、59、2・3年p. 16)	○「発想・構想」「知識・技能」「鑑賞」の学習の目標に対応した色分けで学習過程が整理され、題材に応じて適切な順番に配列されている。(1年p. 10～13、18～19) ○表紙が作品の素材等を再現した質感となっており、漫画家など、生徒が興味ある人物を取り上げたりすることで興味・関心をもてるよう工夫されている。(1年p. 8～9、2・3年p. 2～5、1120～127)

選 定 に 必 要 な 資 料

美 術 No. 2

記 号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
I	○サイズがA4からA4ワイドとなり紙面に余裕があり、情報量も多く、見開きで鑑賞の参考作品も見やすくなっている。 ○ページ数は1年生は69ページと他社とほぼ同量。美術1資料「つくってみよう 見てみよう」35ページが別冊として3年間使えるよう工夫されている。 ○「ポイント」（造形的な視点）がオレンジで囲まれて視点を明示し、生徒が共通事項の視点から取り組めるように工夫している。 ○QRコード「作者のインタビュー動画」や「全国の中学生の作品」が充実している。	○中学校で特に学ばせたい、国内外の代表的な作品や作家については、特集のページを設け見開きや大判で掲載したり、美術用語についても大きなフォントで強調したりするなどレイアウトの工夫がされている。 ○見開きでの構成が授業の流れを踏まえて「鑑賞→表現」とつながりのある構成になっている。 ○1年p. 36～40風神雷神の彫刻と屏風を見開きを広げたり畳んだりしながら、比較鑑賞できるように構成が工夫されている。 ○「日本の絵画を楽しむ五つのキーワード」として和紙で作られたページを設け、日本絵画の特徴を5つに整理して学習できるよう工夫されている。(2・3年p. 104)	○表紙裏と巻末に谷川俊太郎「うつくしい」が1年～2・3年に印象的な写真とともに掲載されており、生徒に美術についての興味や関心をもたせることができる。 ○1年p. 4～6「うつくしい！を探してみよう」で実際に中学生が撮った作品と言葉によって興味・関心を高める工夫がされている。 ○「体感ミュージアム」として、「風神・雷神像」が見下ろすように感じる角度からの撮影、異なる作者の「風神雷神図屏風」との比較により、生徒の興味・関心を引くよう工夫されている。(1年p. 36～43) ○「今の自分、これから自分」で、生徒自身の言葉を名言風に掲載し、興味をもって学習に向かうよう工夫されている。(2・3年p. 54～55)	○1年生のロゴマークp. 51で島根県立美術館が取り上げられている。また、2・3年巻末p. 101日本伝統工芸に石見焼も取り上げられている。同ページに美濃和紙の卒業証書も紹介があり、浜田市の中学校でも同様に和紙の卒業証書であり生活と美術の関連を意識することができる。 ○表現において「みんなの工夫」として中学生の発想・構想が作者の言葉と写真、QRコードで掲載されており、少人数の学校でも多様な考え方を参考にできるよう工夫されている。(1年p. 17) ○「日本の伝統工芸」として石見焼の蓋つき壺が掲載されており、故郷の伝統工芸に誇りをもつことやほかの日本の伝統工芸にも関心をもつよう工夫されている。(2・3年p. 101)	○「表現」の「みんなの工夫」の発想・構想を支えるページが充実しており、発展的学習につながる(例1年p. 31)。 ○QRコードが充実しており、(1年p. 9タブレット端末やSDGs解説など、別冊資料)発展的学習や家庭学習の充実につながりやすい。 ○りんごをもとにした様々な作品を紹介し、自由に表現できることを示し、発想の広がりをも促している。(1年p. 14)	○中学校の3年間で学ばせたいことや重視したいことが、大きく取り上げられており、生徒にとっても伝わりやすく訴える力が強くなるように工夫されている。1年生では基礎・基本を重視し、2・3年生では歴史や社会との関係に視野を広げる等、生徒の発達段階に配慮した構成になっている。 ○一題材を、参考作品の鑑賞、表現(発想・構想)、関連作品の鑑賞の順に構成し、「POINT」で造形的な視点を示すなど、学習の過程が工夫されている。(1年p. 24～27) ○3年間使用のコンパクトな別冊資料で既習事項を確認できたり、日本絵画の鑑賞のポイントを整理した和紙のページを設けたりするなど、学習が深まるよう工夫されている。(2・3年p. 27～42)

選 定 に 必 要 な 資 料

美 術 No. 3

記 号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
O	○各題材名の横に「学びの目標」が3つの視点(造形的な視点・技能／発想鑑賞／主体的な取組のための目標)に絞って書かれていることで、生徒も指導者も目的やポイントを確認にできるようになっている。 ○紙面レイアウトがゆったりしており、余白もあるので目に優しく、情報を探しやすい。	○構成について： 3冊分冊である(1年、2・3年上下)。それぞれの段階の課題が表紙に副題で明示されている。 ○3冊で3年間の構成： 入学後「美術1」の巻頭で「3年間の学びを見てみよう」という形で題材ごとに生徒作品を掲載し、見直しをもって学習できるように工夫されている。卒業前に「2・3下」巻末の「あなたへ明日への巣立ち」でまとめている。 ○幅広い教材の選択： 常識として知っておきたいレベルの西洋の古典的な有名作品から現代アート、話題の漫画などのレベルの資料まで幅広く扱われ、生徒の美術的な視点を広げることができるような工夫がされている。 ○表現のページは、関連する鑑賞を取り入れた構成になっている。表現の題材に鑑賞を組み合わせるマークで表示。 ○屏風の鑑賞が掲載してあるページでは、紙質が少し厚くなっていて、実際に折ると屏風と同じような形で立体的にして鑑賞できるようになっており、表裏で2作品がみられる構成となっている。(1年 p. 32～37)	○手厚い導入： 各題材名の下に＜鑑賞の入口＞で実際に問いかけの言葉があり、さらに「学びの目標」「学びのはじめに」のQRコードからの約2分間動画があり、授業でも導入に活用しやすい。 ○充実のQR： 美術1で101点・上巻46点・下巻35点。全国の生徒作品ギャラリーもある。360度鑑賞で立体作品の鑑賞も可能である。 ○各巻の2か所に見開き頁の工夫あり： ・その頁を利用して、各1作品の原寸大表示あり。細部まで鑑賞できるよう工夫されている。(1年p. 4、2・3上p. 26、2・3下p. 25) ・さらに1年p. 24～29は紙質が厚く、折って立体的に屏風にして鑑賞できるよう工夫されている。 ○活動中の中学生の写真も掲載されて親しみが持てる。	○構想や作業活動の手だて： 「作者の言葉」「表現のヒント」「注意しよう(安全面の注意喚起)」などの留意点がマークで示されていて主題を生み出したり、安全な活動をしたりする主体的な活動のための手だてがある。 ○「造形的な視点」がマークで示されていたりすることで、「共通事項」を基にした活動ができる。 ○墨画を3年間で2回に分け、発展的に取り組ませている。 (1年 p. 30・31「墨と水が描く世界」／2・3上「筆と水で多彩に表す」) ○地域関連教材：2・3下 p. 57「日本の世界文化遺産」に「石見銀山遺跡」の文字表記あり。	○紙面に「SDGs ゴール」などの観点がマークで示されている。 ○諸外国の生徒作品なども紹介され、国際社会にも視野を広げ、多様性の理解につなげられる。 ○著名人のインタビューを取り上げることで美術が社会生活の中で生きていることや活躍中のデザイナーなどを紹介しキャリア教育にもつなげている。 ○下段のページ数の横に「参照」「道徳との関連」表示； ・「参照」では関連題材や資料のページへ導く役割あり。 ・他教科との関連にも配慮されているが、中でも「道徳との関連」は表記されているので、生徒にも意識される。	○各題材のはじめに「学びの目標」が3つの視点で生徒も指導者も目的やポイントを明確にできるようになっている。 ○手厚い導入の手だて 有効なく鑑賞の入口＞「学びの目標」「鑑賞の入口」とQRコードの「学びのはじめに」 ○充実のQR(数の多さ) ○各巻1点の原寸大表示 ○「作者の言葉」で作品に込められた思いにふれ、美術と人間についての理解を促すことができる。

選 定 に 必 要 な 資 料

保健体育 No. 1

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
A	・文字が大きく読みやすい。 ・デジタルコンテンツで応用するためか、教科書にイラストが少ない。 ・資料のある位置がどのページにおいて、決まっているため、資料が見やすい。	・どの単元も、課題を見つけるところから、得た知識を活用し、さらに考えを広げる流れが決まっている。 ・第3学年の保健編の単元配列が、時期に応じた配列になっている。	・デジタル教材(QRコード)や動画、ワークシート、3D映像が用意しており、生徒が自分たちで使えるものが多くある。	・性の多様性に配慮した文面、内容にしている (p. 36、51) ・放射線と健康について詳しくまとめている→原子力発電所に対応した学習ができる。	・自分で操作したり模擬体験したりできるデジタル教材が用意されており、理解を深めることができるよう工夫されている。	・デジタル教材がとても充実しており、これからの時代の学びに対応している。しかし、教科書の色使いや文字の大きさ、分量などには改善の余地があると思われる。
B	・文字量を減らし、見開き左側が解説文、右側が資料(写真・図)となっており、学習内容を整理しやすいよう工夫されている。 ・章の始めに、小学校や高校で学ぶ内容との関連を詳しく掲載して、イメージを掴みやすく工夫されている。	・章で取り扱った重要な言葉の解説をまとめた「学習のまとめ」が分かりやすく工夫されている。	・デジタル教材(QRコード)が章でまとめた1つあり、ワークシートやwebテストができ、学習を深めたり、広げたりする工夫がされている。	・傷害の防止の学習において、心肺蘇生法の説明では折込みにして一連の流れが分かりやすく工夫されている。また、実践についても動画で確認することができ、学習が深めることができるように工夫されている。(p. 107)	・章末に「学びを活かそう」という記述式のページがあり、学んだ内容を活用して答えるものとなっている。	・授業の中心となる活動について、「やってみよう」など具体的に示しており、学びを深める活動が分かりやすいよう工夫されている。

選 定 に 必 要 な 資 料

保健体育 No. 2

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
K	・ 体育理論の分野において、写真やイラストなどを用いてより具体的な事例などを紹介し、分かりやすく工夫されている。 ・ 本文の内容がシンプルにまとめられているが、解説、コラム、特集資料ではとても専門的で詳しい内容が載っている。	・ 教科書の章末に知識を確認する問題が掲載されており、各観点に沿った学習の振り返りができるように工夫されている。 ・ 本文の量を減らし、表やイラスト、写真などを多く載せている。	・ デジタル教材(QRコード)によって、資料の映像、クイズ、ワークシート、関連リンクが用意されており、生徒の興味関心を高める工夫がされている。	・ 副題が導入しやすくするために結論付けたものとなっている。 ・ 生徒のイラストは国籍や性の多様性に配慮したものとなっている。	・ 学習のまとめ(単元おわりに知識を活用するもの)が具体例に即しており、生徒が実感しやすい内容になっている。	・ K社は体育・スポーツ分野や保健分野で専門的な書籍を多く出版している会社である。なのでK社の教科書はそのノウハウを余すことなく詰め込んであり、保健・体育分野に興味のある生徒にとってはとても興味関心を引きつけるものとなっていると思われる。
P	・ 効果的な導入から、課題の解決につなげ、最終的には学習の理解度や進捗、取り組み度合いを確かめるものとなっている ・ 内容がコンパクトにまとめられており、分かりやすい文章で理解しやすい。	・ UDフォントを利用しているだけでなく、色合いやイラストがみやすい。 ・ ウェルビーイングの実現に向けた課題設定をしている。 ・ 文章が分かりやすくコンパクトにまとめられ、それを補うようにイラスト、表、解説が各ページ右に配置されており、教科書を読むことで理解が深まる構成になっている。	・ QRコードでは、ワークシート、単元に関連する外部リンクが用意されており、学習を深めたり、広げたりする工夫がされている。 ・ 写真ではなく、意図的にイラストを多くしていると思われる。それは、写真だと生徒によっては不快感を感じる生徒がいるかもしれないという配慮だと思われる。	・ 様々な学びの特性に対応するため、わかりやすい言葉を多く選んでいる。 ・ 保健分野では、教科の特性上、病気が進行している臓器の写真など載せることが多いと思われるが、左記のような理由から写真を使用せずにポイントを押さえつつも不快感を与えないイラストを使用している。	・ 外部リンクにつなげることで、発展的学習につなげられるよう工夫されている。	・ P社はこれからの学びの変化に対応し、デジタル教材を充実させている。一方で教科書を読んで理解していくことも大切だと考え、デジタル教材で視覚的、体験的に学びつつも、教科書を見て、読んでじっくり思考を巡らせていくことも大切だと考えていると思われる。

選 定 に 必 要 な 資 料

技術・家庭（技術） No. 1

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
A	○ガイダンスでは、技術の見方・考え方を働かせて問題解決に取り組むことが示されているので、教科のねらいを理解しやすい。 ○内容A～Dのすべての問題解決のプロセスが示されているので、どの段階を学習しているのかがわかりやすい。	○基礎技能を確認できる「Tech Lab」が問題解決学習の前に示してあるので、製作・制作や作業等に取り組むやすい。 ○特に内容A、Cの導入では、身近な製品を取りあげているので、実感をもって理解しやすい。(p. 28～29等)	○各内容の終末に「すごいぞ技術」として最先端技術と開発者等が紹介されているので、技術に込められた人の思いに気づき、興味・関心を高めやすい。(p. 86等) ○無料で利用できる動画や思考ツール等のQRコンテンツが豊富に準備してあるので、興味・関心を高めやすい。	○内容A～Dのすべての問題解決例において、解決に向けた道筋が見えやすい構成になっているので、学習の進め方をイメージしやすい。(p. 72～73等) ○特に内容Aの「Tech Lab」において、該当する材料をアイコンとして示しているので、どの加工方法で行えばよいのかわかりやすい。(p. 42等)	○各内容の終末に「学習のまとめ」が設けられており、これまで学んできたことを生かして考えを深める工夫がされているので、どのような資質・能力が身についたか確認しやすい。(p. 85等) ○巻末に「プログラミング手帳」として様々なプログラム例を示してあるので、発展的な学習に関心を持ちやすい。(p. 284～288)	○SDGs、STEAM、Society5.0等、技術分野の学習と結びつきが深いキーワードを取り上げているので、持続可能な社会づくりを意識しやすい。(p. 10、④) ○ユニバーサルデザインフォントの採用と合わせて、ふりがなを付しているため、読みやすい。
C	○冒頭に小学校の学習内容との関連が示してあるので、中学校から始まる技術分野へのつながりを理解しやすい。(p. ②) ○ガイダンスでは、立場の違いや見方・考え方について示されているので、問題解決学習の具体的なイメージを持ちやすい。(p. 2～12)	○問題解決の導入として「プチ問題解決にチャレンジ」を紹介し、その後複数の事例を取り上げているので、身近な問題を発見しやすい。(p. 38～41、54～63等)	○「夢をかなえる技術」として章立てしてあるので、最新の技術に対して興味・関心を高めやすい。(p. 246～249) ○巻末に各内容の工夫された設計（育成）・計画シートが準備されているので、主体的に学習に取り組むやすい。(巻末)	○各内容の製作や実習の前に「実習の安全な進め方を知ろう」が見開きページで示してあるので、確認しやすい。(p. 34～35等) ○SDGsや知的財産など今日的な課題に関わる記述にはマークがついてあるので、課題を意識しやすい。(p. 107、186等)	○巻末に「先輩からのメッセージ」が載せてあるので、技術分野で学んだことと上級学校等の選択をつなげて考えるきっかけになりやすい。(p. 250～251) ○各内容の終末に「まとめ」が設けられており、当てはまる言葉を答える問いが示されているので、用語について理解を深めやすい。(p. 69等)	○別冊「スキルアシスト」に、製作や実習の基本事項や発展的な内容が示してあり、持ち運びしやすいので、安全な作業の手順やポイントを理解しやすい。(別冊) ○ユニバーサルデザインフォントで、どのページも文字が大きく配置され、紙面構成が統一されている。また、大切な用語は文字色を変える工夫がなされている。

選 定 に 必 要 な 資 料

技術・家庭（技術） No. 2

記 号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
D	○ガイドンスではイラストや豊富な写真、具体的な例を挙げながら示されているので、学習や問題解決のながれがわかりやすい。(p. 8～24) ○特に内容Aでは、豊富な情報が本文や表中に盛り込んであるので、多くの知識をもとに学習を進めていくことができる。(p. 32、33等)	○見開きページの中央に本文、その周囲に図や写真を配置しているので、全体を俯瞰しながら学習に取り組みやすい。 ○内容A～Dのすべての学習において、問題解決の手順が見開きページ構成で横に流れていくように示してあるので、ながれを理解しやすい。(p. 62～63等)	○巻頭で「ひみつ道具は実現している？」があるので、漫画を通して興味・関心を高めやすい。 ○各内容の終末に、関連する業界従事者への「interview」に関する記載があり、興味・関心を高めやすくなっている。(p. 104等)	○内容A～Dのすべての学習の始めに、身近な製品等を例に「社会からの要求」、「安全性」、「経済性」、「環境負荷」について解説しているので、技術の見方・考え方に気づきやすい。(p. 28～29等) ○特に内容Aの構想場面で、スケッチ例を複数示しているので、具体的な作業をイメージしながら取り組みやすい。(p. 55)	○各内容の終末に、「学習のまとめ」がテスト形式で設けられているので、復習と定着が図られるように工夫されている。(p. 102等) ○各内容の「技術と私たちの未来」に、「やってみよう」として複数の視点が示してあるので、調べ学習や話し合いを活発に行いやすい。(p. 101等)	○これまで学んできた問題解決の手順や取組をまとめて示してあるので、技術分野の出口である統合的な問題の解決への接続をスムーズにしている。(p. 286～289) ○インクルーシブの観点から、単語が途中で改行されないような工夫がされているので、読みやすい。

選 定 に 必 要 な 資 料

技術・家庭（家庭） No. 1

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
A	○ルビが振ってある文字が多い。 ○单元ごとに「まとめ」があり、用語が整理されているので、確認しやすい。 ○文字量と余白の分量が適度で見やすい。 ○掲載資料がより見やすくなっている。	○問題解決的な学習の方法、手順（プロセス）がチャート化されているのでイメージしやすい。 ○導入から基本の学習、発展、まとめまでの活動の流れが統一していて見通しが持ちやすい。 ○学習の流れに沿って構成されているので理解しやすい。 ○デジタルコンテンツの使用方法がある。 ○食品衛生に関して、わかりやすい図で詳しく説明がされていて理解しやすい。 ○高齢者との関わり方は介助例が具体的である。	○導入の課題提示が生活に即している。 ○QRコードのデジタルコンテンツが増えている。 ○実習に関する資料の情報が多く掲載されている。 ○生活メモの欄があり生徒が興味を持っている。 ○随所に写真が資料として活用されている。	○特に島根県というわけではないが、日本各地の食文化や伝統の織物等にふれていたり、地域の気候を意識した住居写真などが示されたりしている。 ○島根県の築地松やしじみ汁などの地域の特色が示されている。 ○巻頭ページに実習や人との関わり等について安全面などをわかりやすく掲示している。 ○調理実習の実習例が豊富である。 ○調理の加熱機器（IHキッチン等）の使い方の説明が丁寧である。 ○基礎技能の定着のための写真やイラスト、QRコンテンツが豊富である。	○「生活に生かそう」では家庭学習につなげられるように課題を提示している。 ○実践レポートの具体例が多く取り上げられている。 ○「学習のまとめ」は生徒が家庭で学習しやすい構成になっている。 ○QRコンテンツが家庭学習にも利用できる。	○ルビが多く振ってあるため、多様な生徒へ配慮があり読みやすい。 ○カラーユニバーサルデザインの配色を取り入れてあり、視覚的に見やすい。 ○内容が、ガイダンス、A「家族・家庭生活」の一部、B「衣食住の生活」、C「消費生活・環境」a「家族・家庭生活」順で構成されている。 ○「生活に生かそう」では家庭学習につなげられるように課題を提示している。実践レポートの具体例が多く取り上げられており、生徒が家庭で学習しやすい構成になっている。

選 定 に 必 要 な 資 料

技術・家庭（家庭） No. 2

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
C	○学習指導要領に提示された項目ごとに内容が配列されている。 ○紙質が丈夫であり、文字が濃く見やすい。	○QRコードの説明が提示されており、利用しやすい。 ○写真が多く掲載されており、図の比較も多い。 ○キーワードが示されており、学習に取り組みやすい。 ○資料が豊富で詳しく掲載されている。 ○重要な語句の説明が丁寧にされている。	○生徒に馴染みのあるキャラクターやアニメなどを利用している。 ○自立度チェックがあり、自分のことを振り返って学習に取り組みやすい。 ○QRコードがページに掲載されているので、動画を見て理解を深めることができる。 ○学習シールが巻末にあり、教科書で確認作業ができる。 ○献立作成ソフトがあり栄養計算が簡単にできる。	○地震などの自然災害に関する内容が掲載されている。 ○特に島根県というわけではなく、日本各地の食文化にふれていたり、「せんばいに聞こう」といったコーナーが示されていたりする。住まいに関しては、出雲地方の住まいが写真資料として載っている。	○ワークシートの記入例が詳細に書かれている。 ○「先輩に聞こう」の内容が掲載されており、キャリア教育につなげることができる。 ○「やってみよう」「調べてみよう」では地域の素材について調べることを提示していて、既存の学習内容をさらに発展させて学習する内容になっている。 ○QRコードが掲載されているため自学自習に取り組みやすい。	○QRコードのコンテンツについて入力保存ができて活用しやすい。 ○家族関係について様々なコミュニケーションツールを掲載している。また家族の関係図を掲載するなど、家族・家庭生活に力を入れた内容になっている。
D	○学習指導要領に提示された項目ごとに内容が配列されている。 ○「先輩からのエール」といったコーナーに、将来に向けての一助になるようなコメントが載せてある。多様な意見の習得に繋がっている。	○ガイダンスのページ数が多く充実している。 ○レイアウトに区切りが付けられており見やすい。 ○実験や科学的な内容も取り上げている。 ○高齢者との関わりでは中学生との関わりについて詳しく示されている。 ○生活の課題と実践において生徒が興味や疑問に思っていたことを考えさせる構成になっている。具体例も豊富である。	○QRコードがページに掲載されているので、幅広く活用できる。 ○写真が大きくて多く取り入れられている。 ○実物大の大きさと載っているのも、イメージしやすい。 ○最新の情報が掲載されており生徒の興味をひきやす。 ○各ページにキーワードになるような写真がページ端に載っているのも、興味を持ちやすい。	○SDGsとの関連が詳しく掲載されていて、グローバルな視点を持ちやすい。 ○他教科との関連性が明記されている。 ○防災関連の内容が豊富である。 ○特に島根というわけではなく、日本各地の食文化にふれていて、各地域の写真が資料として多く使用されている。住まいに関しては、出雲地方の住まいが写真資料として載っている。 ○消費生活では無人決済店舗について具体的に掲載されている。 ○様々な地域の取り組み例が掲載されている。	○学習の最初に具体的な質問があり、自分の生活を振り返って学習しやすい。 ○QRコードが掲載されているので、自学自習に取り組みやすい。 ○動画で示されているので、調理などは取り組みやすい。 ○実践例が具体的で生徒が課題を発展的に取り組んでいきやすいようになっている。	○各内容、実物大の写真が掲載されていて、生徒がより身近に感じられるような工夫がされている ○多様な生徒に対応できるよう配慮されている。(左利きなどを含めて)

選 定 に 必 要 な 資 料

英 語 No. 1

記 号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
A	○語数が各ページ1年生約60～80語、2年生約80～120語、3年生約100～300語というように、段階的に英文の量や活動の種類が増えている。また、小学校の既習語630語、中学校約1700語の計約2300語のうち、発信語彙が800語に厳選され、繰り返し提示することで定着を促している。 ○各Unitの始めに「GOAL」が明示されており、Unitの終わりには「CHECK」で目標に対する振り返りをすることができる。 ○1年生のUnit5からRead and Thinkが加わり、まとまった分量の英文を読む力や考える力、表現する力がつくことをねらいとしている。また3年生のRead and ThinkにReading Tips（英語を読むコツ）があり、読むときの理解を助けている。	○Unitの始めはPreviewから始まり、次にPart1, 2で短めの本文で重要文法を学び、Read and Thinkでまとまった量の文を読む構成となっている。 ○2年生、3年生のUnitの表紙には単元を貫く「問い」があり、Unitの終わりにはその「問い」に対する自分の考えを書く場面が設定されている。 ○2、3年ではRead and Thinkの本文についてRound①概要・大意をつかむ、Round②詳細をおさえる、Round③表現につなげるの3段階の読み方で英文を読む力の育成を図るよう工夫されている。 ○基本本文の練習問題としての「Practice」では、3問目が自己表現問題となっている。 ○道案内やレストラン、電話でのやりとりなど、実生活に即した場面や状況で、即興的なやりとりを行う活動がある。	○Unitの最初に写真や絵が提示されており、題材内容への興味・関心が高まるようになっている。 ○全学年とも、Unitの最初の映像資料（Preview）によって、学習する文法事項を使用する目的や状況の中でイメージしやすくなっている。 ○本文の中にメールや携帯電話を使つての会話があり、実際の使用場面に近い設定の内容がある。 ○各学年の巻末に「Expressions List」があり、Small Talkをする際に有効な表現を練習することができる。 ○QRコンテンツには用例辞典、思考ツール、Activity Sheet、デジタルマップなどがあり、表現活動をサポートしている。	○1年1学期の各UnitにSounds and Lettersを掲載し、小学校で学習した単語を用いて「音と文字」のルールを学び、定着させるとともに、自分の力で読み書きのできるコツを身に付けることができるよう工夫されている。 ○環境問題、絶滅危惧種、貧困の問題、災害などの国際的な課題を取り上げ、視野を広げることにつなげている。 ○アニメやラーメンなど日本独自の文化、ユニバーサルデザイン、伝統文化、防災への取り組みなど、身近な暮らしや社会とも関連が深い内容が題材として取り上げられている。 ○各学年の巻頭に、「学び方コーナー」があり、主体的な学習を支える工夫がされている。	○実生活に即して、場面や状況、目的にあわせたコミュニケーション能力を伸ばすことができるよう、Real Life English という活動が設定されている。内容は直前のUnitと関連したものになっているものもある。 ○食物連鎖やロボット、SDGsなどを英語で学ぶページがあり、他教科と関連づけて学習を深められるよう工夫してある。また、異文化理解や人権、平和への取り組みなど、道徳との関連が深い題材が取り上げられている。 ○各学年の巻頭に「学び方コーナー」があり、生徒が自ら学習を進めることができるようになっている。 ○QRコードを読み取ることので、本文の音声や映像など複数のデジタル教材につなげることができ、学校や家庭で音声を活用した学習を行うことができる。また、本文の音読回数をチェックする欄があり、音読を促している。	○単元のまとまりを重視したUnitの流れになっており、スモールステップで確かな英語力を育成することをねらっている。 ○小学校英語の基礎の定着を丁寧にフォローしており、文法配列に系統性を持たせ、Unitは聞く→話す→読む→書くというように漆塗りの活動で小中の接続を図っている。 ○Unitで学習してきたことを統合した言語活動をしてStage Activityがあり、カナダからのビデオレターの内容をふまえて、相手意識をもって発信活動をおこなうことができる。また、多様な文化や価値観への気づきを促す「ダイバーシティメモ」や、SDGsを自分事として考える題材が豊富である。

選 定 に 必 要 な 資 料

英 語 No. 2

記 号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
D	○小学校の既習語606語、中学校1644語を掲載しており、そのうち約790語を重要な語と示している。重要語は太字で書かれているため、メリハリのある効果的な学習ができる。 ○1年生の初めは音声を中心に、単語や音、英文の語順など小学校での既習英語を復習しながら段階的に中学校への学習へつながるよう工夫されている。また教科書に書き込みができるようになっている。 ○文構造・文法事項が各単元の始めのScenesでマンガ形式で導入されており、言語使用場面と学習内容がイメージしやすくなっている。	○1つの単元 (Program) はScenes, Part1, Part2, Part3, Review and Retell, Actionから成り立っており、知識・技能を身に着けた後、思考力・判断力・表現力を働かせ、最後は既習事項で自己表現する流れで構成されている。またページ右下にはGoalが示されており、何を目的に学習しているのが可視化されている。 ○Power-Upでは、電話や買い物など、リアルな場面設定で、4技能の能力を伸ばす活動が設定されている。 ○毎時間の帯活動として活用できるSmall Talkがページの下にあり、即興で話す力を鍛えると同時に、既習事項の定着を図ることができる。	○各単元のとびらに新表現を学ぶと何ができるようになるのかという目標を簡潔にマンガで示している。 ○弁当、睡眠、ラーメンなど生徒にとって身近な題材を使用している。 ○絵や、写真が多く、興味を引きつけたり、理解を助けたりしている。 ○Coffee Breakが新設され、通常課では扱えない英語表現や異文化情報が深掘りされており、英語に苦手意識のある生徒も楽しく読めるページとなっている。 ○いくつかのProgramの後には「英語早わかり」があり、QRコードでの動画解説などを視聴して、その単元の文法のポイントを確認することができる。	○1年生で基本的なフォニックスを学び、これからの英語の発音に抵抗が少なくなる配慮がなされている。 ○日本文化はもちろん、諸外国の日本とは異なる状況 (ケニアでの通学について、オーストラリアの世界遺産、季節、フィンランド、カナダの自然など) に触れており、世界に視野を広げ、また英語を通して日本を学ぶことができる題材が選ばれている。 ○学期末のまとめの活動としてOur Projectがあり、ふだんの学習が各学年の最終目標へとつながるようになっている。また、学期末のパフォーマンステストにもつなげることができる。	○QRコンテンツには単語の発音や意味の理解ができる「単語アプリ」や新出事項が確認できる「英語早わかり」動画があり、自分に合ったタイミング・ペースで学習することができる。 ○音読の回数をチェックする欄があり、練習を促している。 ○1年巻末資料にアクションカードがついており、アクティビティに活用することができる。 ○入試への「読む量の確保」として、2年生以降はReadingの課が、3年生ではFurther Readingでさらに長い分量の英文が用意されている。 ○Word Box を設けて、語彙を補充し、表現活動をスムーズにしている。 ○SDGs と関連した題材があり、教科横断的な学びができる題材がある。	○基礎・基本が確実に定着するような内容になっている。 ○目標が明記されており、学習の手順もわかりやすく、見通しをもって学習できるようになっている。また、スモールステップで学年の目標を達成できるOur Projectがあり、3年間の目標が明確になっている。巻末のCAN-DOリストでは各Programでの目標を確認することができる。 ○豊富なQRコンテンツが用意されており、生徒が自ら学べるよう工夫されている。 ○日本文化、キャリア教育、科学技術、異文化理解、スポーツ、国際協力、共生、健康など、豊かな感性を育むための題材が取り上げられている。

選 定 に 必 要 な 資 料

英 語 No. 3

記 号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
F	○各学年とも分量は標準時数に対して適切である。 ○第1学年の最初は「Starter」として小学校で既習の内容を楽しく復習できる単元が設定されており、小学校からの接続がスムーズに行える工夫がなされている。 ○lessonの導入部分では、日常生活の中で、基本本文を用いる場面設定がしてあり、「生きた外国語」として英語を学習する導入となっている。	○第1学年前半は、聞く→話す→読む→書くの構成で1"Lesson"が構成されており、4技能をバランスよく向上させる工夫が見られる。 ○第1学年後半から第2、3学年は、 ①テーマの導入（話す・聞く、教材への興味） ②基本本文の導入、整理（言語知識） ③Exercise（話す・聞く、言語知識・思考判断表現） ④本文（聞く・読む） ⑤本文概要理解・整理（思考判断表現） ⑥自己表現（思考判断表現） で1lessonが構成されており、4技能、そして身につけたい力がスムーズにかつバランスよく向上するよう工夫されている。またレッスン全体を通して言語活動の設定が充実している。	○全体に淡いカラーで余白もあり、すっきりと見やすく構成されている。 ○内容が難しくなりがちな第3学年の本文やReading Partにも絵や写真資料がふんだんに使われており、生徒の興味関心を保つ工夫がなされている。また長い文もパート毎に分けてあり、圧迫感を感じない工夫がされている。 ○lessonの題材として、漫画、アニメ、音楽、写真など中学生の興味関心の高いものを取り入れられ、自らすすんで英語で発信したくなるように工夫されている。 ○2年My Dreamなど、自分の生き方を前向きにとらえることのできる題材が選ばれている。 ○後置修飾など文法説明のページは図解で分かりやすく示されている。また使用場面がマンガで示されおり、生徒の興味をひきつつ理解しやすい工夫がなされている。	○外国語を使用する場面設定として、「自分のこと」「日本のこと」「日常のこと」「文化のこと」が全体を通して意識され、ふんだんに配置されている。日本文化を発信する力をつけるような題材が取り入れられている。 ○「今日的な課題」としては、環境問題、多様性、国際理解などが取り上げられている。ただ「知る」だけに留まらず、考えて自分の意見を発表する、課題追求につながる活動が設定されている。 ○Projectでは、調査結果をランキングにして伝えたり、観光マップを作成して発表したり、CMを作ったりと、相手意識をもったプレゼンテーションを英語で行う活動が設定されており、自己実現の過程において英語をどう生かしていくかという、キャリア教育の側面も担うような単元設定の工夫がある。	○QRコードを読み取ると、音声だけでなくアニメーションを見ることができ、場面理解を英語でできるよう工夫されている。 ○デジタルコンテンツでは、学習者が基本本文の発話を録音・判定される機能が、正しい発音習得のための自学が可能である。 ○デジタルコンテンツの単語練習機能では、「覚えた単語」と「まだ覚えていない単語」に分けて記憶されるため、効率よく繰り返し学習ができる。 ○For Self-studyとして、教科書の外でも英語に触れる機会を具体的に紹介しており、生徒の環境や興味に応じて、英語の世界を広げることのできる例が紹介されている。 ○付録に様々な既習事項が丁寧にまとめて配置されており、家庭での学習に、教科書を使用しやすいように工夫されている。	○外国語活動からのつながりを意識した入門期から将来を見据えた卒業まで段階を追った構成になっている。 ○3年間を通して、環境問題、車イスバスケット、私の夢、世界遺産、落語など幅広い題材について触れることができる。それらの題材を通して聞くこと、話すこと（やりとり、発表）、読むこと、書くことに興味をもって、バランスよく学習することができる。 ○Projectの単元では、相手意識や聞き手意識をもって資料や原稿を作成したり、プレゼンをしたりする力が身につくようなテーマが設定されている。またインタクションなどが活発に行えるような工夫がされている。

選 定 に 必 要 な 資 料

英 語 No. 4

記 号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
G	○各学年とも分量は標準時数に対して適切である。 ○第1学年の最初にSpringboardが設定しており、音と文字をつなげる活動や、小学校での既習内容の復習など、小中の接続が丁寧に行われるよう工夫がなされている。 lesson1、2は、マンガのレイアウトにされており、本文内容を理解しやすい工夫がある。 ○教科書全体を通して、4技能のどの項目を扱うのかピクトグラムで示されており、学習者に分かりやすい配慮がなされている。	○Lessonごとに、読む、聞く、話す、書く活動がバランスよく配置されている。 ○各part末に配置されているThink & Try では、他人の会話をロールプレイする中で、他人になりきって意見を言う場面が設定しており、多面的・多角的に物事を考えるような工夫がされている。 ○Projectでは、「Ideas for change」や「The Best Product Ever」など、現代の課題を踏まえて未来のことを考え発表する活動が設定されている。思考ツールもふんだんに取り入れられ、英語で思考する力が身につく工夫がなされている。	○Tipsでは、4技能について、例えば「会話をつなげたい」や、「アイデアをまとめたい」など、英語学習中に生徒が困り感を感じやすい場面であろうと示されており、学習者への配慮が感じられる。 ○絵や写真に加えて、グラフや思考ツールの提示も多く、自分の考えをまとめて発信することを念頭に置いたレイアウトの工夫がある。 ○各Lessonで、実在の有名人やスポーツ選手などの資料がふんだんに扱われており、題材内容への興味・関心が高まるように工夫されている。	○紙面上の英語表記の割合が多く、指示や内容理解の質問も英語で行われており、英語を英語で学ぶ意識と、英語に慣れさせたいという意識が感じられる紙面構成になっている。 ○教科書本文の、音読練習の回数をチェックして書き込んでいくことができるようになっている。 ○3年間を通して、環境問題、スポーツ界で活躍する人々、平和について考えるなど、様々なテーマが取り上げられており、それぞれのテーマについて自分なりに考えを深めていくことができる。	○学習者用デジタルコンテンツでは、従来の使い方はもちろん、発話や発音がチェックできる機能が追加されており、「話すこと」の自学自習にも対応されている。 ○巻末のCan-Do自己チェックリストでは、学年の到達度目標を自己評価して書き込むことができるようになっており、自分ができていないところの確認がしやすい。 ○2單元ごとに既習の内容をQ&A形式でまとめて復習することができるActivity Plusが設定されており、学習者が自学しやすい工夫がされている。	○日本文化や異文化理解の一助となる題材として、読み物や挿絵や、魅力的な写真が随所に盛り込まれており、多様な文化に接しながら、学習を進める工夫がなされている。 ○事前の到達目標の提示やレッスン後の文法事項の復習など、見通しを持って学習に取り組むことができる。

選 定 に 必 要 な 資 料

英 語 No. 5

記 号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
I	○各学年とも分量は標準時数に対して適切である。 ○1年では自分、日常生活のこと、2年では自分の町や地域、日本文化等、3年では社会的な問題等を扱い、各学年の発達段階や興味・関心に配慮した内容となっている。 ○各Unitの題材・文法構造・目標等の一覧が巻頭に掲載され、見通しをもって学習を進めていくことができるように工夫されている。	○Unit の扉で本文全体の大筋をつかみ、Part のページ左側ストーリーと右側の活動で「使用場面」「働き」がインプットからアウトプットにつながる構成になっている。 ○各学年のUnit の目標つきたい力が明記しておりポイントが分かりやすい。 ○読み物は楽しい内容のものや、生き方について考えさせられるものなどバラエティに富んでいる。	○Active Grammarでは、語順を意識した文法説明がなされており、色などを効果的に使用して、生徒の主体的な学習の手助けになる工夫がされている。 ○題材と自分をつなげて、即興的に考えを伝える力が身につけられるように、About YouでSmall TalkやWritingのトピックが随所にある。 ○人物に感情移入をしやすくするイラストや、魅力的な写真を用いたり、言葉のやり取りを、親しみのある読みやすい設定で読み取ることができるような工夫がなされたりしており、興味・関心が高まりやすい。	○生徒の身近な話題から、体験したこと、環境問題等様々な題材が取り入れられており、自分はどう考え、伝えるべきか考えることができる。 ○Let' s Be Friends!では小学校外国語での学習を考慮した内容となっており、小学校から中学校へスムーズに学習がつけられるように工夫されている。	○英語の学び方ガイドでは、生徒の学習に対する素直な質問に対して、自分に合った学習方法を見つけられるよう、いくつか例を挙げて示してあり、学習していくために役立つコツを段階に合わせて取り入れている。 ○Story Retellingでは、イラストとキーワードをもとに、今まで学習したことを自分の言葉で伝えることができる工夫がされている。 ○Let' s Talkでは、生徒の身近な興味関心のある内容について、その場でやり取りをすることができる工夫がされている。 ○QRコードの添付がされている。家庭にコードを読み取る環境が整っていれば、本文や発音練習を家庭で正しく行うことができる。	○小学校から中学校へのつながりを意識した入門期から、将来を見据えた卒業まで段階を追った構成になっている。 ○学校生活や社会的な課題を取り上げたり、生徒の心を揺さぶる話題を取り上げたりして、学習を通して人としての成長を促す内容となっている。 ○自己発信型のコミュニケーションができるような教材が多く取り入れられ、複数の技能をバランスよく育成することができる構成となっている。

選 定 に 必 要 な 資 料

英 語 No. 6

記 号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
L	○各学年とも分量は標準時数に対して適切である。 ○生徒の発達段階に即した内容が取り入れられている。 ○2年生からは各Unitの最後に設置されているRead/Listen&Thinkがあり、題材にはPartで学んだTargetが含まれ、流れの中で理解を深められるようになっており、目的意識をもちながら「読む」「書く」「聞く」「話す」活動をするようにできている。 ○ペア活動やグループ活動が数多く設定されており、意見や考えを伝え合うことで学びを深められるようになっている。	○全Unitとも「読む」→「聞く」→「話す（やりとり、発表）」→「話す（やりとり、発表）」・「書く」という一連の流れになっており、学習の流れがつかみやすくなるよう工夫されている。 ○各学年で2、3回、それまでの技能をあわせた活動Projectに取り組むことで力を伸ばすことができるよう工夫されている。 ○各PartのExpress Yourselfでは目的・場面・状況に応じて自己表現活動することができる。 ○1年生の教科書では、Let's Start という、小学校の学習内容のふりかえりを行う単元が設定されており、スムーズに中学校の学習へと接続できるようになっている。	○Unitの最初に内容に関する写真とQRコードにより、学習への興味・関心が高まる音声聞けることができる。 ○Let's Talkでは実生活に即したリアルな場面や状況に応じて即興的なやり取りを身につけることができる。 ○Let's Writeでは日常的、社会的な話題について書くためのスキルを分かりやすく身につけることができる。 ○話す活動に役立つ単語や表現が、巻末のWord Boxに示してある。	○異文化理解や防災、共生など身近な社会課題が題材として扱われている。 ○伝統文化や環境、キャリアが題材として取り上げられており、3年生では自分の住む町を紹介する活動や日本の伝統文化を紹介する活動が設定されている。 ○各学年に文法事項についてまとめられた「Targetのまとめ」があり、生徒が自学自習で復習しやすくなっている。	○様々な人物の生き方や平和などが題材となっており、道徳との関連も図れる内容となっている。 ○QRコードにより、本文の音声や映像など複数のデジタル教材につながることで、学校だけでなく、家庭でも音声を確認できる。 ○PartのTarget（新出文構造）の解説動画で復習することができる。	○日本や世界で起こっていることや、グローバルな問題や地域の課題が題材として取り上げられており、生徒たちが自分のこととして考えたり発信したりしやすくなるよう工夫されている。 ○各Unitの前半にある「Part」の部分は語数が多すぎないようにされており、学習内容を用いた様々な活動に取り組む時間が確保しやすくなるものと思われる。

選 定 に 必 要 な 資 料

道 徳 No. 1

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	(感性をはぐくむ要素を含む)
A	○付録を含めて35時間以上の教材が記載されている。小学校教材も記載されている。 ○定番教材が、よりイメージしやすい挿絵とともに復活している。	○紙面と動画が関連した教材があり、文章を読むことに困難さがある生徒も授業に参加しやすい。 ○グラフや書き込み部分が多く設定されており、さまざまな学び方が可能となっている。 ○全学年で、いじめや生命に加え、情報モラルやSDGs、多様性について考えるユニットがあり、それぞれ重点的に学習できるようにになっている。	○生徒が親しみやすい著名人が題材にされている。 ○イラストや漫画が多く、生徒が関心をもちやすいように工夫されている。 ○内容が複雑な教材には、四コマ漫画が収録されているなど、理解を助ける手立てがある。	○全学年に防災道徳の内容があり、命を守ることの大切さを学ぶことができる。	○QRコードが教材に記載されており、これまで以上に学びが広がる工夫がされている。 ○全学年「プラス」が掲載されており、さまざまなタイミングで活用をすることができる。	○補助資料が豊富であり、文章と視覚的資料のバランスが良い。 ○各教材の最後に「考えよう」「自分を見つめよう」が設定されており、教材の内容と実生活の両面から深く考えられるように工夫されている。
	○「心情円」が巻末に付録としてついており、言葉で気持ちを伝えることが難しい生徒にも、自分の考えを表現できる機会が設定されている。 ○AB判サイズを採用 ○ユニバーサルデザインを採用。 ○色覚特性への配慮がされている。					
G	○全学年の巻頭ページで、オリエンテーションや授業の流れについて示され、授業のイメージがもちやすくなっている。	○人権課題、生命、持続可能な社会についてユニットが構成されており、テーマにそって重点的に学習することができる。 ○全学年、年度末に「よりよく生きる」ことについて考えるページや「1年間の道徳科で学んだこと」の一覧があり、ふりかえりが充実している。	○文字だけでなく、漫画や絵本、グラフなどが組み合わされた教材が多く、生徒が興味・関心をもちやすい。 ○教科書に実際に書き込むページが豊富で、自分の考えをもちやすい。	○人権課題や特別支援教育への配慮が充実しており、すべての生徒がともに学べるように配慮されている。	○QRコードがすべての教材に記載されており、これまで以上に学びが広がる工夫がされている。	○文章と視覚的資料のバランスが良い。 ○各教材の最後の「学びの道しるべ」では、発問やQRコードが記載され、ねらいに迫ったり、より幅広い学びにつなげたりすることができる。
	○ユニバーサルデザインを採用 ○B5判サイズを採用					

選 定 に 必 要 な 資 料

道 徳 No. 2

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	(感性をはぐくむ要素を含む)
I	○34時間分の教材が内容項目のバランスを考えて配列されている。	○全学年で、いじめ問題や生命の尊さ、情報モラル、防災、キャリア教育、世界の中の日本を意識してについて重点的に学習できるようになっている。 ○いくつかの教材が関わりながらテーマに向かって考えられるように、ユニットが構成されている。	○「問い」が教科書のさまざまなところに盛り込まれており、生徒が自ら考えていくことを促している。 ○ヨシタケシンスケ作・絵の「コラム」が掲載されており、生徒が興味をもって道徳的価値について考えることができる。	○日本の各地域にゆかりのある文化や人物が掲載されており、生徒が身近な地域の良さを考えるきっかけとなっている。	○QRコードを読み取って教材に関する写真や動画等を視聴し、授業や家庭で活用できる。 ○「つなげよう」では、学んだ価値について発展的に考える質問や教材等が紹介されている。	○文章やイラスト、漫画、差し込み資料など全体的なバランスが良い。 ○各教材の最後の「見方を変えて」「考えよう」では、ねらいに迫ることができる。
	○ユニバーサルデザインを採用 ○B5判を採用					
O	○35時間分の教材が内容項目やテーマのバランスを考えて配列されている。 ○定番教材が豊富である。	○ユニット「いじめと向き合う」が、いじめの起きやすい時期に、学年に応じて複数設定されている。 ○ユニット「よりよい社会を考える」が、各学年に複数設置され、SDGsに関する資料も豊富である。	○時代を切りひらいてきた先人たち、「いま」を生きる人たちとして、生徒が興味・関心をもちやすい人物が取り上げられている。 ○「あすへのメッセージ」で、教材に登場する人物からの言葉がコラムとなっている。また、補足資料「視野を広げて」も充実している。	○「自分らしく生きる」とはどのようなことか考える教材で、井手上漠さんが取り上げられている。	○QRコードからさまざまなコンテンツが活用できる。	○「考えてみよう」はねらいに迫る問いが、「自分にプラスワン」はさらに考えを深める問いが設定されている。 ○別冊「道徳ノート」は発問に対する考えと、振り返りの記入ができるようになっている。
	○UDフォント					

選 定 に 必 要 な 資 料

道 徳 No. 3

記 号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	(感性をはぐくむ要素を含む)
P	○35時間分の教材が内容項目やテーマのバランスを考えて配列されている。 ○全学年の巻頭ページで、道徳科で学ぶことや授業の流れについて示されており、授業のイメージをもちやすくなっている。	○登場人物が複数いる場合は、教科書下部に照会があり、理解しやすいように工夫されている。 ○キャリア、多様性、SDGsについてユニット学習が構成されており、テーマにそって重点的に学習することができる。	○今話題の漫画の場面が取り上げられていて、生徒が興味・関心を持ちやすい。 ○絵や写真が多いので、より場面や様子が想像しやすく、生徒が興味・関心を持ちやすい。	○大田市の中学校在作成に携わった教材「金色の稲穂」が掲載され、地域の教材を生かして考えを深めることができる。	○「クローズアップ」では、教材に関する情報のみならず、他国の文化など多様な内容が記載されており、視野を広げることができる。 ○QRコードを読み取って教材に関する写真や動画等を視聴し、授業や家庭で活用できる。	○各教材の最後の「考えよう」では、発問が2つ用意され、ねらいに迫ることができる。 ○「文章と視覚的資料のバランスが良い。
	○ユニバーサルデザインを採用 ○AB判サイズを採用					
S	○35時間分の教材が内容項目のバランスを考えて配列されている。 ○全体的にシンプルな色使いとなっている。 ○読み物資料が充実していて、じっくり教材に向き合うことができる。	○キャリア、情報モラルについてユニット学習が構成されており、テーマにそって重点的に学習することができる。	○生徒が親しみやすい著名人が題材にされている。	○日本の各地域にゆかりのある文化や人物が掲載されており、生徒が身近な地域の良さを考えるきっかけとなっている。	○QRコードを読み取って教材に関する写真や動画等を視聴し、授業や家庭で活用できる。	○「マイ・プラス」「Thinking」が設定されており、教材の内容と実生活の両面から深く考えられるように工夫されている。 ○教材の最後に必ず「自分との対話」が設定されていることで、自分に問い返す時間をもちやすい。
	○ユニバーサルデザインを採用 ○B5判を採用					

選 定 に 必 要 な 資 料

道 徳 No. 4

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	(感性をはぐくむ要素を含む)
T	○情報モラル、ジェンダー、キャリア形成など、現代的な課題を丁寧にとりあげている。 ○先人の生き方、考え方を 知る教材もあり、幅広い世代から学ぶことができる教材となっている。	○教材の配列が、項目ごと にまとまっていて、価値項目が意識しやすい。	○ウェルビーイングカードを活用することで、生徒の考えを引き出しやすいように工夫されている。 ○政治、スポーツ、文化などさまざまな分野の著名人が掲載されており、生徒が興味・関心をもちやすい。	○「マダム・バタフライ」では島根にゆかりのある森英恵さんが扱われており、親しみをもちやすい。	○QRコードを読み取って教材に関する写真や動画等を視聴し、授業や家庭で活用できる。	○各教材の最後に「考えよう」「深めよう」が設定されており、教材の内容と実生活の両面から深く考えられるように工夫されている。
	○AB判を採用					